明治大学 「個」を強くする大学。

農学部 大学院農学研究科

SCHOOL OF AGRICULTURE

2024

農学部長
竹本 田持（たけもと たもつ）

1981年明治大学農学部卒業、1983年同大学院修士課程修了。財団法人過疎地域問題調査会研究員を経て1986年明治大学農学部助手、2007年同教授。博士（農学）。副学長（教務担当）、同（社会連携担当）などを歴任後、現職。

“Life” makes the world go round.

学部長メッセージ

「いのち」に感謝をもって向き合うことが、人としての成長につながる。

農学とは、人間が生きるために欠かすことのできない農業を対象とする学問です。その農業は、農産物生産だけでなく医薬品や健康食品、環境問題など、私たちの暮らしを支える衣食住すべてに関係しています。「農業をするわけではないのに、なぜ農学部に入るの？」と疑問を持つ人がいるかもしれませんが、農学部とは、現場で農業を担う人の育成だけを目的とした学部ではありません。生物学や化学、物理学などの自然科学、経済学や社会学などの社会科学、人文科学などの諸科学を駆使し、私たち人間と動植物、微生物、あらゆる「いのち」に関わることを総合的に教育・研究しています。農業が関わるものは、動植物や微生物の生命活動から生み出されるものであり、それゆえに農学に携わる私たちは「いのち」への感謝と謙虚さをもつ必要があります。

このように「いのち」に学生・教員一人ひとりが向き合う明治大学農学部は、バランスのとれた4学科と総合科目群で構成されています。生産現場での技術的な合理性や可能性、人間を含む生物の生存環境について考究する農学科。農畜産物の機能や有用性を分析し、化学的な知識から食や栄養、生産環境を研究する農芸化学科。動植物、微生物の生命としての可能性を追求する生命科学科。産業や生活、地域として農業をとらえることで、実際の生産・流通・消費の仕組みをグローバルかつローカルな視点で考える食料環境政策学科。そして、学部横断的に学ぶ総合科目群には、語学、体育・教養科目、農場実習などが含まれます。

温暖化による地球環境の変化、人口増加による食糧不足の懸念などから、農学への期待はこれまで以上に高まっています。「いのち」に国境はなく、明治大学農学部での研究成果は、地球規模の持続的な社会の実現に貢献しています。皆さんが、農業の可能性を追求し、現場に出向き、そこで採れたものをさらに豊かにし、うまく分配する…農業界の縮図のような環境での学びを通して、「いのち」と向き合い、人として成長されることを願っています。

動画と記事で学部を知る
「Step into Meiji University」もぜひご覧ください

CONTENTS

学部長メッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
農学部概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
農学部の特色 ～ 個を育てる農学部の学び ～
① 将来進むべき路を選択する際の大きなきっかけともなる実験・実習授業 ・・・・・・・ 05
② 文系でも少人数教育や実習を重視する ー食料環境政策学科のプログラムー ・・・・・・・・ 07
③ 教養から実習、外国語まで幅広く学ぶ ・・・・・・・ 09
農学部のカリキュラムと4年間の流れ ・・・・・・・・・・・・ 11
学科紹介
■農学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
■農芸化学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
■生命科学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
■食料環境政策学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
総合科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
生田キャンパス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
研究施設・設備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
明治大学黒川農場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
国際交流（留学制度） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
大学院 農学研究科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
サポート体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
就職支援・資格取得 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
入試情報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52

※登場する人物の在籍年次や役職等は、取材時点のものです。
2022年以前撮影の写真も掲載しています。

明治大学農学部の歩み

食料・環境・生命をキーワードに社会に貢献できる人材を育成する学部

明治大学農学部は、1946年に前身の明治農業専門学校が設立されて以来、時代と社会の要請に応じて改組・拡充を進めてきました。1949年新制大学発足時に農学科と農業経済学科の2学科を設置し、1953年には農産製造学科（1968年農芸化学科に改称）を増設。さらに2000年、生命科学科を新設して現行の4学科体制となり、2008年、農業経済学科を食料環境政策学科へと改称しました。

農学部では食料・環境・生命をキーワードに、自然と人間社会の調和を図り、生命を理解し、地球的な食料・環境問題の解決に貢献できる基礎力と応用・発展性のある人材の育成を目的とした教育と研究を行っています。また、自然科学系教員と社会・人文科学系教員の協力のもと、文理融合型の教養教育と専門教育を実施する体制を整えているのも本学部の特長です。4つの学科は独自性を保ちながら有機的関連をもってカリキュラムを編成しており、専門分野のみでなく、さまざまな分野を学部内で学ぶことができます。

生田キャンパス内の最先端の研究機器と実験圃場、2012年4月にオープンした川崎市黒川地区の明治大学黒川農場など、実験・実習を行う施設も充実しています。

［ 農学部の3つのキーワード ］

食料

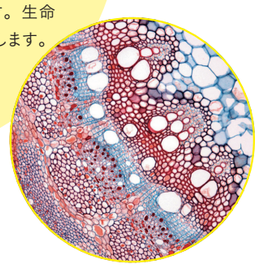
人は多様な生物を「食べる」ことによって生きています。さまざまな環境で健全な作物を効率よく生産すること、優良な性質を受け継いだ健康な家畜を育てること、発酵等を利用して食品を加工することは、人類が未来にわたって生存するための必須条件です。生産者の生活を支え、安全な食料を効率的に流通させることも大変重要です。

環境

生物は周囲の環境とのかかわりによって生きています。水と光は生命の源ですが、多すぎても少なすぎても生物は育ちません。地球規模の気候変動や災害は、人に新たな対応を迫っています。環境ストレスに耐える作物、環境に負荷をかけない循環型の社会、植物や微生物を利用した環境改善や快適な空間の創成が求められています。

生命

人はDNAやタンパク質などの分子レベルで生命を理解し始めました。食と環境の問題解決には、生物がいかに生きているか、体の中で何が起きているか、環境やほかの生物とどうかかわっているかを知ることが必要です。さらに生命を巡る地域や国際社会の動きを知ることも大切です。生命の理解は、人の健康維持や医療にも貢献します。



明治大学農学部

School of Agriculture

- 農学科
  Department of Agriculture
- 農芸化学科
  Department of Agricultural Chemistry
- 生命科学科
  Department of Life Sciences
- 食料環境政策学科
  Department of Agri-food and Environmental Policy

▼

明治大学大学院 農学研究科
（博士前期課程・博士後期課程）

Graduate School of Agriculture

- 農芸化学専攻
  Agricultural Chemistry Program
- 農学専攻
  Agriculture Program
- 農業経済学専攻
  Agricultural Economics Program
- 生命科学専攻
  Life Sciences Program

大学院 農学研究科の歩み

農学研究科は、1959年の農産製造学専攻の設置とともに生田キャンパスに発足しました。1978年の機構改革に伴って、農産製造学専攻を農芸化学専攻に改称し、新たに農学専攻・農業経済学専攻を設置しました。さらに2003年に生命科学専攻の設置により現在の4専攻制となりました。各専攻には、博士前期課程・博士後期課程が設置され、研究活動に邁進しています（詳しい情報は「明治大学 大学院ガイドブック」をご覧ください）。

明治大学農学部の強み

4つの特色で
「全人教育」を推進

Point 1 現場を通じて理解を深める 多数の実験・実習

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように基礎科目と総合科目を並列し、多数の実験・実習を設置。基礎をしっかり学んだ後に段階的に専門性を高められるように科目を配置しています。

▶詳細はP.05

Point 2 大学付属の黒川農場で行う 全学科共通の農場実習

「実地を重視し、実地を通じて理解を深め、研究をすすめる」という農学の基本的性格を具体的に展開・経験できるように、全学科共通の科目として1年次に明治大学黒川農場における農場実習が設置されています。

▶詳細はP.09

Point 3 3年次から始まる卒論関係科目 文献調査・特別研究

3年次からは、専門とする研究分野に関係の深い科目を中心に、文献調査や特別研究など、ゼミ・研究室にかかわる科目や活動が増えてくるため、学生の学びへの主体性・積極性が重視されます。

Point 4 最新鋭の研究施設と設備 高度な先端研究

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の革新を常に踏まえ、最先端の農学研究に要求される高度な研究機器類や施設を多数設置し、研究体制の充実を図っています。

▶詳細はP.40

個を育てる農学部の学び①　Class Report

将来進むべき道を選択する際の大きなきっかけともなる実験・実習授業

生命科学実験

座学だけではなく、実習を通じて理解を深めることを目的とした実験・実習の授業が多いのも明治大学農学部の特長です。さまざまな実験を体験する中で、自分の興味の対象、進むべき道がより明確になっていきます。

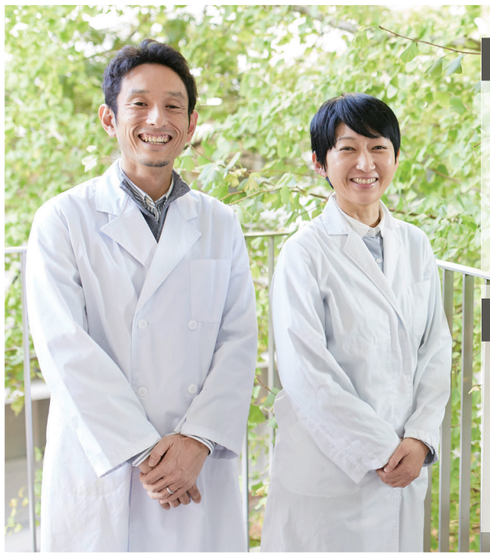
本格的な研究に進むうえで必要な基礎知識や実験手法を幅広く学ぶ

農学部の1・2年次のカリキュラムには、農学全般の基礎を実体験の中で幅広く学べる「実験・実習授業」が多く導入されています。生命科学科の1・2年生を対象とした「生命科学実験Ⅰ～Ⅳ」もそのひとつ。Ⅰ～Ⅳそれぞれにテーマが設けられており、毎回複数の教員が各実験・実習をリレー形式で担当します。

最初の導入となる生命科学実験Ⅰでは、動物・植物・微生物のそれぞれの分野を専門とする3人の教員が担当し、実験や観察を行います。なかなか教科書通りにはいかない実験を自分の手で体験しながら、実験を行うスキルや結果をレポートとしてまとめて人に伝える力を養っていきます。また、生きた動物を使った実験もあるため、研究の過程で動物の命を奪うことについて考えるきっかけとする狙いもあります。

続く生命科学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳではそれぞれ「化学反応」、「タンパク質」、「動物」がテーマです。基礎的な理論や分析手法を理解し、実践を通して周辺知識や実験の操作技術を習得します。

これらの生命科学実験の授業で学ぶ知識や技術は、いずれも3年次以降の専門的な研究に必要不可欠となる内容です。さまざまな実験を通して、主体的に実験に取り組み、そのプロセスや結果を自ら考察する力やプレゼンテーション能力を養うことができます。幅広い実習・実験を通して、自分のやりたい研究がきっと見えてくるはずです。



MESSAGE　河野 菜摘子 准教授

実験では、すぐ助け船を出すのではなく、学生たちが自ら考えることを尊重しています。疑問に対する答えを自分で考えるのが研究の面白さ。高校の授業や日常生活で抱いた「なぜ？」という気持ちをもち続けてください。

PROFILE
2007年東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了。筑波大学大学院・博士研究員、国立成育医療研究センター・博士研究員を経て2015年より現職。専門分野は動物生殖科学、分子細胞生物学。

MESSAGE　乾 雅史 准教授

明治大学農学部は農芸化学からフィールド、生命、マクロからミクロまで幅広い領域を扱っています。専門分野以外の周辺知識も身につけながら、自分の興味のあることを深く掘り下げて研究するには最適の環境です。

PROFILE
2006年東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了。Padua大学Department of Medical Biotechnologies 博士研究員、国立成育医療研究センター研究所システム発生・再生医学研究部ゲノム機能研究室長を経て2018年より現職。専門分野は発生生物学、シグナル伝達。

実験はグループに分かれ、コミュニケーションを取りながら全員が手を動かすようなスタイルで行います。

実験は行うだけでなく、それを報告書にまとめることも大切です。一つひとつの工程のメモを取ったり、写真を撮ったりして事象を記録します。

STUDENT VOICE

ここで生命科学実験から実験科学の扉を叩いて挑戦していこう

生命科学科2年
張 一心
中国陝西省
咸陽市百靈高等学校卒業

私は元々白衣を着ることが好きだったので、生命科学実験が好きになったのかもしれません。私にとって、これは「なぜだろう」を「なるほど」に変えてくれる授業です。生命科学実験は、生命科学に対する興味を実際に自分で検証できる能力に転換する場であり、本で習得した理論とリアルな実体とを関連付ける場にもなります。授業では、様々な動物や植物の組織の切片を顕微鏡で観察したり、スケッチをしたりしました。また、ミクロな視点で、タンパク質やDNAにも着目してその性質を調べました。先生の指導のもとで、プロトコルに従って一歩ずつ進み、データを収集し、結果まで辿り着きました。実験中に自分が感じた疑問を、自分なりに調べてみて、そして自分が納得できる結論を付けることによって、知識が定着できて自分の学問も発展していきます。私にとって、生命科学実験を受講したことはとても貴重な経験です。

PICK UP　その他の注目授業

農学実験Ⅴ

農学科
倉本 宣 教授

農学実験Ⅴは大学で初めて学ぶ考え方を体験として理解します。生態系の組み合わさった「ランドスケープ」の構造を風景としてとらえて、デザインと計画の方法を実習します。「ランドスケープ」の機能として物理的な環境である気象と生物的な環境である雑草の芽生えの発生や動物の利用を調べます。「ランドスケープ」の変化としては、南圃場の草地を刈り取って前後で比較する調査をします。草地を改変することを事例として自然環境アセスメントを体験します。

農芸化学実験 微生物学実験

農芸化学科
中島 春紫 教授

農芸化学科では1年次から化学実験、生化学・物理化学実験、環境化学実験など多くの実験に取り組むことになります。微生物学実験では、雑菌の混入を防ぐための無菌操作に留意して、培地の作製・微生物の植菌・培養などの基本的な操作を一つひとつ学んでいきます。微生物の素顔を顕微鏡観察し、生理試験を行い、DNAを調製する体験は将来の研究活動の礎となるでしょう。

個を育てる農学部の学び ②　Class Report

文系でも少人数教育や実習を重視する ― 食料環境政策学科のプログラム ―

少人数ゼミと多彩な実習科目

農学部には文系学科として食料環境政策学科が設置されていますが、ここでも政策学科独自のファームステイ実習や、他学科同様の農場実習など、現場での実習を重視しています。また、少人数制のゼミが充実しているのも食料環境政策学科の特長です。

少人数ゼミに加えて、農場実習、ファームステイ実習など多彩な実習科目を用意

食料環境政策学科では、まず1年次春学期に、大学で学ぶうえでの基礎の基礎、いわば学問リテラシーを身につけることを目的とした「基礎ゼミ」を実施します。続いて2年次秋学期には、各教員の専門とする分野で、課題を発見・考察し、解決策を探るために何をすべきかについて、能動的に学ぶ「プロジェクトゼミ」があります。緊密な指導と学生の積極的な参加が特長で、3年次からのゼミ活動に備えるものとして位置付けています。そして3・4年次には「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に参加します（研究室に所属）。活発なディスカッションの場を設けるとともに、3年次は研究室単位でフィールドワーク実習等を行い、4年次には教員の指導を受けながら、大学における学習の集大成としての卒業論文の完成を目指します。一方、実習科目としては、1年次に黒川農場での農場実習、2年次にはファームステイ実習を実施します。国内の10カ所程度の研修地の中から1カ所を選び、農家の方々と起居寝食を1週間ともにするファームステイ実習は、経営・家計・生活を総合的に把握するのに役立つだけでなく、農村生活の実情にふれ、経験を豊かにしてくれます。希望者は、さらに海外での実習「海外農業体験」（主に中国の農業企業における研修）にも参加可能です。3年次に入ると、研究室ごとに「フィールドワーク実習」として、実際に地域に赴いて調査を行います。この実習は、調査方法を学び、対象地域の実情を知るとともに、データを収集し分析する能力や問題解決に必要な応用力を身につけることを目的としています。さらにレポートにまとめることを通して、表現能力の向上を図ります。積極的な学生は、加えて「インターンシップ」にも参加しています。インターンシップは、学生の自主的な研修を単位化するものであり、いくつかの研修先については大学側からの斡旋も行っています。

MESSAGE　**本所 靖博** 准教授

ファームステイ実習は1週間農家等に宿泊し、農作業に従事して農家生活や農村社会の実態に触れる実習です。農家と寝食をともにするこの実習は学生の人生にとっても貴重な経験となり、学生の学ぶ姿勢が変わる転換点になっています。また、フィールドワーク実習では、農村地域に足を運び、自分たちで調査を行い、対象地域の実情を知るとともに、収集したデータを分析し、調査結果をまとめ、社会課題を解決する力を身につけます。当学科の特徴でもある教員と学生の接点が近くなり、学生が成長する機会となっています。

PROFILE

1992年明治大学商学部産業経営学科卒業、1994年明治大学大学院商学研究科博士前期課程修了、1997年同博士後期課程単位取得退学。専門分野は持続可能性の会計学。

STUDENT VOICE

現場実習を通して、学びのインプットとアウトプットが自然にできる学科

食料環境政策学科3年
齋藤 陽美
国立筑波大学附属坂戸高等学校卒業

食料環境政策学科は農学部の中の文系学科であり、国際貿易、地域づくり、農業経営、環境会計、六次産業マーケティングなど、多岐にわたる側面から食料・農業・環境について深く学ぶことができます。また、1年次には生産過程に触れて基礎的知識を培う農場実習、2年次では全国の生産者を訪ねて現場を学ぶファームステイ実習、3年次は専門で学んできた知識を現場の実態と結びつけるフィールドワーク実習が設置されており、段階を踏んで学びのインプットとアウトプットができます。さらに、1年次から少人数ゼミが設けられており、実習やゼミを通して教員と直接関わることのできる距離の近さもこの学科の特徴です。挑戦しようとしている取り組みや進路について親身に相談に乗ってくださる先生方ばかりで、安心して学びを深めていける学科だと感じています。

PICK UP　**注目授業**

プロジェクトゼミ

食料環境政策学科
小田切 徳美 教授

食料環境政策学科では、毎学年、ゼミを履修することができます。1年次は基礎ゼミ、2年次はプロジェクトゼミ（プロゼミ）、そして3・4年次はリサーチゼミと、いずれも10名前後の少人数教育の場となります。なかでもプロゼミでは、学生が主体となり、具体的な「プロジェクト」を実践します。例えば、私が担当するプロゼミでは、特定の自治体の「ふるさと納税」のありかたを提案する活動を行っています。返礼品競争がしばしば問題となる制度ですが、むしろ寄付者が地域の「関係人口」となるために、どうしたらよいか。地域の魅力の発掘からはじめ、具体的な産品の提案まで、毎年とてもユニークな提案が行われています。

個を育てる農学部の学び③　Class Report

教養から実習、外国語まで幅広く学ぶ

黒川農場 農場実習

農学部では、9割以上の学生が1年次に「農場実習」を体験します。自らの手で作物を育てる中で、学生たちは生命を育むことの楽しさ、難しさに気づき、農学を学ぶ本当の意味を知ることになります。

生産現場を知ることが農学を学ぶスタート地点となる

農学部全学科共通の科目として1年次を対象に開講されているのが、黒川農場で行われる「農場実習」です。入学して間もない学生たちに、教科書や文献だけでは絶対に知ることのできない、農学のベースとなる「生産現場」を知ってもらうために設置されているのが、この授業です。

実習は教員だけでなく、農場職員、現場経験をもつ嘱託スタッフたちの協力のもと行われるため、農作業に不慣れな学生たちでも安心です。最初は泥だらけになることに抵抗を感じていた学生も、すぐに作業に夢中になり、徐々に農業のおもしろさに引き込まれていきます。選んだ学科によって環境、食料、生命と専門分野に違いはあるものの、農学すべての基礎となるのは「命を育む」という意識です。それを現場で身をもって体験することで、農学を学ぶ目的や意味がおのずと理解できるようになっていきます。

MESSAGE　**伊藤 善一** 専任講師

農学の一分野である栽培は、講義や教科書だけでは学べません。実際に畑やハウスで、種まきから栽培管理、収穫までを経験することで、多くの知識や技術を身につけることができます。栽培に限らず、すべてのことにおいて、経験するということがとても大切だと考えています。大学では、勉強や研究だけではなく、趣味やサークル活動などにも参加して、楽しみながら多くのことを経験して、学んでいただきたいと思います。大学での経験が、みなさんの人生をより豊かに、幸せにしてくれるものと信じています。

PROFILE

2002年岩手大学農学部卒業。2010年千葉大学大学院博士後期課程単位取得退学。博士(農学)学位取得後、千葉大学環境健康フィールド科学センター特任助教を経て、2012年より現職。専門はフィールド先端農学。

STUDENT VOICE

生命科学科2年
竹内 悠大
神奈川県私立
桐蔭学園高等学校卒業

心から入学して良かったと思える大学。そう思えた一つが農場実習での学び

農学部のカリキュラムには、魅力溢れる多くの講義内容が用意されており、農業分野は勿論のこと、それ以外にも沢山の教養を身につけることができる幅広い学習環境が整っています。また、充実した実験や実習・フィールドワークといった座学での学習に縛られない、より実践的な学びを得ることができます。その一つとして生田キャンパスから離れ、黒川農場にて行われる農場実習があげられます。実際に体を動かし、汗水を流して仲間達とともに農業などに触れる機会は、他では味わえない素晴らしい貴重な経験となり、これまで授業で学んだ知識を現場でフルに活かせる絶好の機会ともなります。農場実習は、そこで感じる本当の農業の面白さや奥深さを知ることができることに加えて、生産者の目線に立って、現場で必要とされる様々な課題や問題解決に向けて、多くのことに気づかされるかけがえのない学びとなりました。

英語農学

英語でも専門の勉強をしよう

担当教員　英語農学研究室　McTaggart, Iain 准教授／Ph.D.

英語農学科目では、食料、農業、健康衛生、環境などの問題に関連する専門的な英語を学ぶことができます。英語農学コースは、農学科、農芸化学科、生命科学科、食料環境政策学科それぞれに関連した科目を中心に数科目提供されています。授業では、重要な専門用語を学び、英語で問題や課題を説明し、討論の練習をします。また、少人数のグループに分かれて、それぞれの研究や興味のある事柄や事象についてお互いに説明したり、話し合ったりする練習をします。英語農学の授業に参加することで、英語でのコミュニケーション能力を高め、持続可能な農業や農村地域、バイオテクノロジー問題、食品化学、気候変動といったテーマについて、自信をもって英語で話せるようになります。

MESSAGE　**McTaggart, Iain** 准教授／Ph.D.

最近、仕事や研究で、海外の人とコミュニケーションを取りたい、または取らなければならないと思うことが多いと思いますが、そのような場合、英語でコミュニケーションをとることが多いと思います。そこで、この授業では、様々なトピックについて英語で話したり、書いたりする練習をします。授業では、教員からだけでなく、学生同士がお互いに助け合い、学び合えるように、少人数のグループ学習をたくさん行います。この授業で英語のコミュニケーション能力と自信を養い、世界に羽ばたきましょう。

PROFILE

1985年グラスゴー大学理学部卒業。1992年エジンバラ大学大学院理工学研究科博士課程修了。スコットランド農業大学で環境スペシャリストとして15年間勤務。2007年より明治大学農学部特任准教授、2017年より現職。専門は環境科学。

文芸思潮

西洋文学の伝統にふれて 現在（いま）・自己を見つめる

担当教員　英語第Ⅱ研究室　狩野 晃一 専任准教授

©British Library Board

西洋文学の伝統、とりわけ叙事詩のそれは古代ギリシアのホメロスを嚆矢として、ローマのウェルギリウス、中世のダンテ、チョーサー、その他後世の作家へと連綿と続いています。ミメーシスという模倣と創造の技法によって、それぞれの作品がいかに創造され、また受容されてきたかを、作品を丹念に読みながら考察します。過去に創られた物語世界が語りかけることと、現在の我々の思考様式などを往還しながら理解を深めていきます。

講義では全て邦訳を使っていますが、先人の優れた訳業のおかげで、時間的にも言語的にも遠く離れた作品に接することができ、結果的に豊かな読書体験につながります。古典作品は山の如くにしてただそこに在ります。現代に束縛された自分という枠を外して、ひとたび頁を捲れば、多様な世界、深い叡智を示してくれます。ともに古典の世界に分け入ってみましょう。

段階的に専門知識を学べるカリキュラム

1・2年次は、農学全般を幅広く学ぶことができるように、各学科の基礎科目群と総合科目を並列したカリキュラムを設定。学科の枠を越えて幅広い知識を得ることで、農学という分野が自然、社会、人間、あらゆるものの基礎になっているということを、まずは理解します。3年次からは研究室に所属し、各自の専攻科目を重点的に学んでいきます。単に専門的な知識や技術を習得するだけでなく、全地球的、全生物的視野に立ってマクロ的に事象を把握し、対処できる人材の養成を目指します。

[カリキュラムの特長]

総合科目（全学科共通）

幅広い領域をカバーしたカリキュラムで、農学に関する土台を確実に身につける

- 教養科目群
- 共通専門科目群
- 外国語科目群
- 保健・体育科目群
- 総合科目ゼミナール（サブ・ゼミナール）

専門科目

2年次から3・4年次にかけて、専門科目を関連づけて学習できる履修モデルを準備

- 基礎科目群
- 専攻科目群
- 卒論関係科目群

[専門性を高める学び]

1・2年次

専門分野の実験・実習に取り組む

講義で得た知識をより いかすための 体験型教育

→

3・4年次

研究室に所属し、卒業研究に取り組む

少人数の 学生と教員との マンツーマン教育

[農学部4年間の流れ]

1年次

自分の興味や将来の希望を見据え、4年間の学習目標全体を考えます。総合科目（教養科目群、共通専門科目群、外国語科目群、保健・体育科目群）を中心に1年次に指定された専門科目と基礎科目を学びます。次第に学科ごとの違いや、自分が専門として何を学ぶべきかが明らかになってくるでしょう。

視野を広げる1年

農芸化学科1年
加藤 那月
東京都立小山台高等学校卒業

1年次では様々な角度から農学の基礎を学びます。専攻科目では将来専門的な内容を学んでいく上で必要となる知識を身につけながら、視野を広げ、自分の興味・関心のある事柄を見出します。「覚える」ことが主軸であったこれまでの学びとは異なり、大学の講義では「考える力」を育むことができます。1年次の全学科共通科目である農場実習は、学生自ら農作業を経験することで生産現場の労力や普段の食事へのありがたみを実感することができる貴重な体験です。また、農芸化学科では1年次の春学期から学生実験を行います。3年次に始まる研究活動に向けて土台となる実験手法を身につけ、思考力を養います。座学だけでなく実験にも主体的に取り組むことで新たな発見につながり、将来進みたい道が見えてくるでしょう。

2年次

総合科目と専門科目の基礎科目群に、専攻科目群が加わってきます。学科の枠を越え、幅広い知識を得ることで、おのずと農学という分野が、自然・社会・人間のあらゆる基礎と、その上に繰り広げられた成果によって支えられていることに気づくはずです。

「研究」に備えた「学習」を

生命科学科2年
八代 舜己
静岡県立下田高等学校卒業

2年次には今後を大きく左右する選択があります。研究室の選択です。それに伴い、学習内容も1年次より細分化したものとなります。生命科学科の場合、1年次の学習内容が「生命科学全体を理解するためのもの」であるとするならば、2年次の学習内容は「各研究分野の末端に触れるもの」であるといえるでしょう。そしてこれらの授業を通じて、自分が研究したい分野や「この人のもとで研究したい」と思える先生を探すことになります。また、多くの先生方が「疑問を持つことを大切にしてほしい」とおっしゃいます。それは3年次から始まる正解がわからない「研究」に備えるためです。それを踏まえ、先人たちが積み重ねてきた成果を「学習」し、疑問を持つことにより研究に対して柔軟な考察をするための能力を養う準備期間が2年次であると私は考えています。

3年次

専門科目を重点的に学ぶ学年です。各自の所属する学科と、専門とする研究分野（ゼミ・研究室のテーマ）に関係の深い科目を中心に授業計画を立てます。文献調査や卒業研究など、ゼミ・研究室にかかわる科目や活動も加わるため、とても重要かつ充実した1年になります。

好きな学びを追求できる1年

食料環境政策学科3年
鈴木 理来
愛知県私立愛知産業大学三河高等学校卒業

1、2年次の授業では、基本的な分野を学ぶことができました。3年次ではより専門的な分野の授業が増え、自身が興味のある分野を追求することができます。また、同時にゼミに所属するので、2年間の学びで興味を持った分野を仲間と共に学ぶことができます。ゼミでは、解決すべき課題を掲げ、解決するためにグループディスカッション等を行います。すると、自身が今まで気づかなかった新たな課題や視点に気づくことができ、ブラッシュアップされたアイディアを出すことができます。さらに、フィールドワーク実習にて、現地調査や農業体験をすることで、現場の現状に基づいた意見を出すことができるようになります。これを繰りかえすことで、より問題解決に向けた具体的な話し合いをする能力がついたと感じています。

4年次

卒論のための研究が中心になります。視野を広げるため、前年度まで履修していない科目を補うこともできます。進学希望者は大学院科目の一部を学ぶこともできます。最後の仕上げの年です。就職・進学の準備をしながら、悔いのない学生生活を送りましょう。

経験と知識を自分でまとめる

農学科4年
猿谷 琉真
群馬県立高崎高等学校卒業

4年次は、学生最後の1年間ですが、農学科の半数以上の学生が、交友やアルバイトだけではなく、就職活動と卒論研究を両立しています。卒論では、これまでの経験や授業で得た知識をもとに、研究成果を自分の言葉でまとめます。私の所属する研究室では、仲間と協力し、野菜の栽培研究を進めています。就職活動では、自分の言葉で自分のスキルや経験を説明するため、大学での経験が直接いかされるはずです。これらを両立し、進路を決めるためには、試験設計を自分で計画したり、就職キャリアセンターを利用したりするなど、何事にも主体的に取り組むことが大切です。

このように、4年次は卒論研究や就職活動など、大学で学んできたことや経験を自分でまとめることが多くなります。明治大学の施設や情報を有効活用しながら、学生生活を楽しみましょう。

農学科 Department of Agriculture

食料生産と環境保全の分野で社会貢献を目指す

農学科は、自然と調和を保った高度文明社会を実現させるために、「食料」と「環境」の分野で地域や国際社会で活躍できる人材を養成することを使命としています。人類の持続的生存について俯瞰的・長期的視点から洞察し、農学全般においての問題点を発見し、それらを解決する能力を身につけられるよう、系統的かつ幅広いカリキュラムと研究領域を設けているのが本学科の特長といっていいでしょう。学生は3年次より研究室に所属し、一般教育で裏づけられた倫理観・世界観をベースに、新農業資源の開発、水・土地資源をいかした食料の安定生産、農村と都市の環境保全や緑の保全・創生などに関する専門知識を身につけていくことになります。

目指す将来イメージ

- 種苗会社 農業関連企業
- 食品関連企業 製薬企業 臨床開発関連会社
- 国家公務員、地方公務員（農業、畜産、造園、農業土木、林業など）
- 教員、大学院進学など
- みどり、デザイン関連会社

教員からのメッセージ

産業の一つとしての農業の現状と未来を学ぶ

生産システム学研究室
池田 敬 教授

本ガイドをご覧の皆様にとって「農業」とは何でしょうか。農業は野菜や果物を作る仕事とお考えの方が多いと思います。もう少し視野を広げて考えるならば農業とは社会を構成する大きな産業の一つです。そこには農作物を生産することによって収益を上げるという大前提があります。しかし、そのために例えばエネルギーを浪費したり、環境を破壊したりしてもよいというわけではありません。農業という産業をどのように効率化して人類と社会に役立て、環境と調和させていくか、様々な考え方・手段を基礎から応用まで幅広く学べ、研究できるのが農学科です。農業・農学とは何か、社会、環境、そして、未来を見据えて一緒に考え発展させていきましょう。

[学科主要科目]

1年次

▶基礎科目群

科学基礎科目
- 数学概論(2)
- 化学概論(2)
- 地学概論(2)
- 物理学概論(2)
- 地学実験(1)

導入科目
- 栽培学入門(2)
- アニマルサイエンス入門(2)
- 生産環境学入門(2)
- ランドスケープ入門(2)

農学基礎科目
- 農学基礎実験(1)
- 基礎生物統計学(2)
- マクロ生物学入門(2)
- 分子生物学(2)
- 応用生物統計学(2)
- 植物生理学(2)
- 基礎図法(2)
- 土壌学(2)
- 生物多様性進化学(2)
- 動物生理・栄養学(2)

▶専攻科目群
- 資源植物学(2)
- 専門実習Ⅰ(1)
- 専門実習Ⅱ(2)

2年次

▶基礎科目群

科学基礎科目
- 物理学実験(1)

農学基礎科目
- 植物遺伝資源学(2)
- 測量学Ⅰ(2)
- 動物遺伝資源学(2)
- バイオテクノロジー(2)
- 測量実習Ⅰ(1)
- 基礎植物育種学(2)

▶専攻科目群（基幹科目）
- 農地工学(2)
- 応用力学(2)
- 保全生態学(2)
- 農学実験Ⅰ(1)
- 農学実験Ⅲ(1)
- 農学実験Ⅴ(1)
- 水理学(2)
- 作物学概論(2)
- 動物生産・福祉学(2)
- 植物保護学概論(2)
- 動物行動学(2)
- 生産システム学概論(2)
- 農学実験Ⅱ(1)
- 農学実験Ⅳ(1)
- 農学実験Ⅵ(1)
- 環境気象学(2)
- 園芸学概論(2)

▶専攻科目群（分野別科目）

食糧生産関係
- 動物資源繁殖学(2)
- 動物感染症学(2)

環境関係
- 農村計画学(2)
- 構造力学(2)
- 応用水理学(2)
- 土壌物理学(2)
- 測量学Ⅱ(2)
- 測量実習Ⅱ(1)
- ランドスケープ計画学(2)

3年次

▶基礎科目群
- 技術者倫理(2)
- 化学実験(1)

▶専攻科目群（分野別科目）

食糧生産関係
- 動物育種学(2)
- 動物生産制御学(2)
- 動物環境学(2)
- 熱帯農学(2)
- 動物資源機能利用学(2)
- 実験動物学(2)
- 野菜園芸学(2)
- 花卉園芸学(2)
- 植物病害制御学(2)
- 植物育種学(2)
- 生産システム学(2)
- 食用作物学(2)
- 果樹園芸学(2)
- 野生動物学(2)
- 植物病理学(2)
- 応用昆虫学(2)
- 植物線虫学(2)
- 肥料学(2)
- 工芸作物学(2)
- 植物ウイルス学(2)
- 害虫管理学(2)
- 園芸植物繁殖学(2)
- 植物成長制御学(2)

環境関係
- 生産気象学(2)
- 材料施工学(2)
- プロジェクト計画法(2)
- 農業水利学(2)
- 土質力学(2)
- 雑草学(2)
- 景観園芸学(2)
- ランドスケープ設計学(2)
- ランドスケープエコロジー(2)
- 生物多様性再生学(2)
- ランドスケープ活用学(2)
- ランドスケープ工学(2)
- ランドスケープ情報論(2)

基幹科目
- ランドスケープデザイン学(2)

3・4年次

▶卒論関係科目群

文献調査・特別研究(卒論)(8)

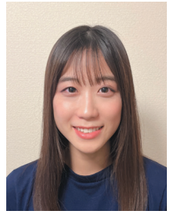
※カリキュラムは変更となる場合があります。 ※( )内は単位数。

詳しくはホームページへ。 https://www.meiji.ac.jp/agri/department/agriculture/cr_no2004.html

[農学科の4年間の学び]

1年次

幅広い分野を学ぶ



農学科1年
礒谷 彩夏
栃木県立宇都宮女子高等学校卒業

農学科では、幅広いカリキュラムと研究分野を学ぶことができます。入学時に自分の興味のあることがわからなくても、たくさんの分野の授業を受けることで、楽しそうな分野や研究に気づくことができるはずです。また1年次の農学基礎実験では、これから研究を行ううえで必要となる、基礎的実験技術を楽しく学ぶことができます。農学科は、やりたいことを思いっきりやれる環境が整っています。

〈 時間割の例（1年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	フランス語1A フランス語1b	物理学概論	ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟ入門	栽培学入門	心理学A	–
2	ﾏｸﾛ生物学入門	英語Ia 英語Ib	スポーツ実習I 英語Ⅲ	ｱﾆﾏﾙｻｲｴﾝｽ入門 ｱｸﾞﾘｻｲｴﾝｽ論	フランス語Ia フランス語Ib	化学概論
3	農学基礎実験 農学基礎実験	地学実験	生産環境学入門 生物多様性進化学	英語Ⅲ 英語Ⅲ	日本国憲法 教育心理学	–
4	農学基礎実験 農学基礎実験	地学実験 健康科学	基礎図法	特別支援教育概論	土壌学 教育行政学	–
5	–	–	–	–	教育基礎論	–

授業紹介 農学基礎実験

科学実験のトビラを開き、仲間を増やす

農学基礎実験では農学科の幅広い教育研究分野の入り口となる科学実験の基礎を学びます。高校生時代とは異なる実験材料、触ったことのない実験器具を使用します。実験は成功や失敗することもありますが、本実験の目標は、実際に手を動かして実験を行い、得られた結果から、結論を導き出すという一連の手順を修得することです。安全教育、文献検索とレポート作成法、顕微鏡を用いた観察、試薬の調製法、無菌操作、ＤＮＡの電気泳動法、野外調査法、データ処理などを学びつつ、「実験の面白さ」を体験してもらうことを期待しています。また、グループ毎に実験することもあるので、仲間が増える機会もあります。（塩津 文隆准教授）

2年次

先を見据えた学習を

農学科2年
坂井 昭良
佐賀県私立龍谷高等学校卒業

2年次は研究室の配属に向けて、研究分野を選ぶ必要があります。自分がどの分野をより深く学びたいかを決めるためにも、幅広い分野を履修することが望ましいです。

私は、農作業の省力化技術や野菜の低農薬栽培に興味があり、園芸学概論などを受講し、園芸学分野を深く学びたいと考えています。自分の学びたいことを早めに考えておくと、履修科目を組む際や研究室選びも楽になってきます。

〈 時間割の例（2年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	動物資源繁殖学	ICTメディア編集I	園芸学概論	植物遺伝資源学 資源植物学	英語IIa 英語IIb	–
2	植物分類・形態学	経済学 英語Ⅲ	ICTベーシック	遺伝子工学 作物学概論	心理学A 生産システム学概論	–
3	ICTベーシックI	農学実験I 農学実験VI	–	食品衛生学 植物保護学概論	–	–
4	–	農学実験I 農学実験VI	–	植物生理生産学	–	–
5	–	–	–	–	–	–

授業紹介 園芸学概論

園芸とは

園芸とは農業の一分野であり、そこで扱う作物や生産に関連する科学を園芸学と言います。今日では果樹、野菜、花き（観賞植物）の生産から保蔵、流通、利用、加工などを含めた広い分野が体系化されていますが、さらに人間の生活環境まで体系化されつつあり、人々が健康で快適に生活するためには非常に重要な分野と言えます。本講義は、園芸作物の特徴および園芸学の基礎理論を理解し、園芸学が包含する各分野に応用する能力を修得すると共に、さらに高度な専門を学ぶために必要な知識を修得することを目標としています。（岩﨑 直人教授）

3年次

より実践的な学びへ

農学科3年
平尾 朱麗
神奈川県私立桐蔭学園高等学校卒業

3年次では、専攻科目をメインに履修します。植物・動物・環境などの農業に関わる幅広い分野から講義を選択し、これまでに学んだ基礎知識をより深く学ぶことができます。また春から研究室に所属し、それぞれが研究活動をスタートさせます。実際に生産現場を見学する機会があり、同じ分野に興味を持つ仲間とのゼミナールは実践的に考える力が身につき、価値ある経験になります。

〈 時間割の例（3年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	動物生産学	応用昆虫学 害虫管理学	野菜園芸学	–	–	–
2	果樹園芸学 園芸植物繁殖学	実験動物学	花卉園芸学	有害動物学	農村計画学 緑地管理学	–
3	雑草学 ゼミナール	植物線虫学	動物環境学	農業政策論	生産システム学 生物多様性デザイン学	–
4	ゼミナール	–	ゼミナール	動物資源機能利用学	–	–
5	–	–	ゼミナール	–	–	–

研究室REPORT 動物生産学研究室

安心・安全な畜産物を生産するために

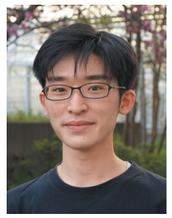
近年、世界的な人口増加に伴う食料需要の拡大に伴い、良質なタンパク源として、畜産物への需要が拡大傾向にあります。その一方で、ウシから排出されるメタンガスに伴う環境問題や、食料と飼料の農地をめぐる競合など、畜産に関連する多くの社会問題が課題として挙げられます。本研究室では、疫学的アプローチやデータサイエンスを駆使して、「食料資源の確保を目的とした持続可能な畜産業の確立」に貢献する研究を行っています。

担当教員より
佐々木 羊介
准教授

畜産物は人間にとって良質で必要なタンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル類を多く含む重要な栄養源です。安心・安全な畜産物を生産できるようにするために、動物生産に関わる様々な課題の解決を目指した研究を行っています。

4年次

将来につながる技能・考え方を育む



農学科4年
池田 雄哉
群馬県伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校卒業

4年次は主に研究活動に取り組むことになります。研究室ではこれまでに学んできた専門分野について自分のテーマを持ち、その解決に向け研究を行います。研究の過程で文献調査、実験を行い、その結果や自分の考えを文章やスライドにまとめ他の人たちと共有することで、英語力や文章力、コミュニケーション能力など、将来どの分野でも必要とされる実用的な技能を身につけることができます。

〈 時間割の例（4年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	–	卒業研究
2			卒業研究		–	
3			卒業研究		博物館実習	
4	–	ゼミナール	ゼミナール	–		–
5	–	ゼミナール	ゼミナール	–	–	–

研究室REPORT 植物線虫学研究室

生物の不思議を理解し、食糧・環境問題に貢献する

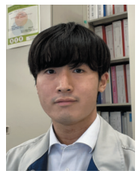
線虫は昆虫と並び地球上で最も繁栄した動物で、様々な場面で私たち人間と深い関わりをもっています。例えば、線虫の中には農作物や樹木に寄生し、病気を引き起こす種も多数おり、食糧問題や環境破壊の一因となっています。私たちの研究室では、多様な線虫の生き様や病気の仕組みを深く理解することを通じて、線虫による植物感染症の制圧を目指すとともに、生物多様性や進化に関する基礎生物学的研究にも取り組んでいます。

担当教員より
新屋 良治
准教授

線虫は「知られざる不思議な生き物」の代表です。地球上のあらゆる場所に生息し、医学の発展に貢献することもあれば、病気を引き起こすこともあります。多様で、不思議で、大きな可能性でいっぱいの「線虫」。学べる大学は希少です。一緒に研究しませんか？

卒業生からのメッセージ

学びが仕事につながる



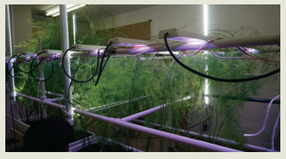
2021年
農学科卒業
三浦 広大
長野県 長野地域振興局
農地整備課 防災第二係

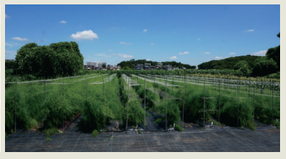
農学科では幅広い分野の研究が行われており、1・2年次の授業の中で興味のある分野が見つかると思います。私は2年次に履修した農学実験Ⅵをきっかけに、水理学に興味を持つようになりました。3年次から研究室で応用水理学をより深く勉強する中で、行政の立場から農業農村工学分野に携わりたいと思うようになり、現在の仕事に就きました。仕事場では学生時代に研究していた水利施設を実際に施工しました。ぜひ充実した大学生活を送ってください。

TOPICS 持続可能な資源循環型農業の実現

生産現場で実現できる環境制御による新栽培法の開発

資源循環型社会の構築には、植物残渣など未利用部位の有効な利用法の開発が求められます。なかでもアスパラガスは未利用部位の産出量が多く、その処理は世界的にも急務の課題です。「野菜園芸学研究室」では、代表的な機能性成分であるルチンとプロトディオシンを解析し、前者は褐色根や擬葉に、後者は鱗芽などの地下部に多く、露地と植物工場の栽培研究の比較から環境制御により両成分の含有量を増減でき、ルチンに生育阻害物質の可能性があることを明らかにしました。そこで、明治大学が開発した世界初の画期的な栽培法である1年養成株全収穫栽培法「採りっきり栽培」を用い、露地と水耕で環境制御しながら栽培し、成長と両成分の含有量との関係を解明します。世界規模の問題であるアスパラガスの連作障害の回避と、現在廃棄物である未利用部位の新たな利用価値の創出の実現のため、生産現場で実現できる環境制御による新栽培法の開発を目指します。（元木 悟 教授）


植物工場の閉鎖型システムを使った水耕栽培


生田キャンパス北圃場「採りっきり栽培」

DATAでわかる農学科

■ 在籍状況（2023年4月1日現在）

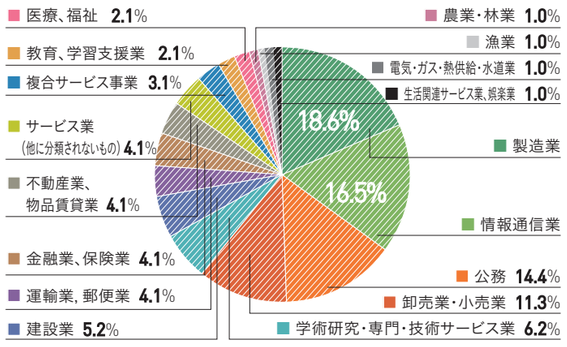
	男子	女子	合計
1年	88(54%)名	75(46%)名	163名
2年	106(62%)名	64(38%)名	170名
3年	93(66%)名	47(34%)名	140名
4年	95(62%)名	59(38%)名	154名
合計	382(61%)名	245(39%)名	627名

■ 研究室状況（2023年4月1日現在）

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
18	13人	90.5%

■ 2022年度進路状況

■ 2022年度就職実績



■ 主な就職先（大学院生を含む）

・国家公務員（一般職）	・日本たばこ産業（株）	・西松建設（株）
・国家公務員（総合職）	・横浜市役所	・日清オイリオグループ（株）
・NECソリューションイノベータ（株）	・カルビー（株）	・日本ハム（株）
・キオクシア（株）	・小林製薬（株）	・（株）日比谷花壇
・全国農業（協組連）本所	・（株）サカタのタネ	・マルハニチロ（株）
・東京都庁	・宝醤油（株）	・持田製薬（株）
・日本生活（協組連）	・東京特別区	

[農学科の教育・研究スタッフ]

農学科のホームページはこちら！

https://meiji-agri.com/

生産システム学研究室
現場で使える技術・情報を考える

池田 敬 教授／博士（農学）
生産現場で発生するさまざまな問題を解決するために、技術開発と基礎研究を結びつけた研究を行っています。

応用昆虫学研究室
環境と人にやさしい害虫管理へ

糸山 享 教授／博士（農学）
害虫や天敵昆虫の生理・生態的な特性を多面的に解析し、農薬だけに頼らない効果的かつ効率的な防除技術の開発を目指しています。

果樹園芸学研究室
多様な果実の安定供給法の確立

岩崎 直人 教授／農学博士
地球環境の変動が各種果樹の生産性におよぼす影響について解析し、持続可能な新しい生産体系の確立に取り組んでいます。

応用植物生態学研究室
里山と里川の生物多様性を守る

倉本 宣 教授／博士（農学）
現代は大量絶滅の時代です。里山における人と自然との関係を取り戻すことを通して、生物多様性を回復していこうとしています。

土地資源学研究室
熱くならなきゃ、研究じゃない！

登尾 浩助 教授／Ph.D.
土壌中と接地気層中の物質とエネルギー循環に関する研究を通して、環境と食料生産の維持に貢献できる人材を育成しています。

花卉園芸学研究室
花の魅力を引き出そう

半田 高 教授／農学博士
起源種が不明な品種・系統の由来を明らかにするとともに、新しい遺伝資源や形質（花の香り等）の利用を考えて研究しています。

植物育種学研究室
細胞の死から植物の生を考える

丸橋 亘 教授／農学博士
植物の生を適切に保つうえで重要な役割を果たすプログラム細胞死について研究し、植物育種に役立つ技術の開発を目指しています。

動物遺伝資源学研究室
動物遺伝の可能性を引き出す

溝口 康 教授／博士（農学）
ウシ・ブタ・イノシシなどを対象とした動物遺伝学的研究を行い、資源・生産・保全分野への貢献を目指します。

野菜園芸学研究室
現場直結型の技術確立

元木 悟 教授／博士（農学）
野菜類の生理・生態の解明とともに、野菜の生産現場を意識した安定生産技術および作型の開発を目指しています。

植物病理学研究室
病気に負けない植物を創る

大里 修一 准教授／博士（農学）
植物の病気を分子レベルで解き明かし、バイオテクノロジーを駆使して病気に強い植物を生み出すための基礎研究を行っています。

動物環境学研究室
ヒトと動物の幸せな環境を

川口 真以子 准教授／博士（医学）
化学物質や養育方法等の環境因子が動物へおよぼす影響について研究し、動物福祉や生産性の向上へ寄与することを目指しています。

環境デザイン研究室
生活空間のあるべき姿を追究

菅野 博貢 准教授／博士（工学）
戦後、常に経済最優先で形成されてきた日本の都市や農村の空間について、将来の質的転換をはかる方策について追究しています。

水資源学研究室
水の世紀を生きる

小島 信彦 准教授／博士（農学）
環境に配慮した操作や管理が容易で省エネルギーな水利施設の開発や水を適切に利用するためのシステムの確立を追究しています。

動物生産学研究室
持続可能な畜産業を確立する

佐々木 羊介 准教授／博士（農学）
疫学的アプローチやデータサイエンスを駆使して、食料資源の確保を目的とした持続可能な畜産業の確立に貢献する研究を行っています。

作物学研究室
作物の潜在的な生産能力を高める

塩津 文隆 准教授／博士（農学）
作物の潜在的生産能力に対する生理・生態学的な特性を解明し、持続的・安定生産が可能な栽培技術の開発を目指しています。

植物線虫学研究室
植物寄生線虫病に関する基礎・応用研究

新屋 良治 准教授／博士（農学）
農林業に被害をもたらす寄生線虫病の制御手法開発を念頭に置き、線虫の寄生・生殖・行動の解明とその進化プロセスの研究をしています。

地域環境計画研究室
人と空間の問題を考える

服部 俊宏 准教授／博士（農学）
農地を中心とした空間管理とそれを支える人の問題を追究します。地域が健やかであること、豊かであること、持続的であることが目標です。

環境気象学研究室
気候変動が農業へ及ぼす影響の解明と対策

矢﨑 友嗣 専任講師／博士（農学）
農地や緑地の気象環境、および作物（植物）との関係を解明し対策を考えることで、持続可能な農業や生活環境の実現を目指します。

植物線虫学
線虫の脳を理解し、線虫をコントロールする

浴野 泰甫 助教／博士（農学）
植物寄生性線虫が独自に進化させてきた神経構造に着目して、その機能の理解と、防除法への応用を目指しています。

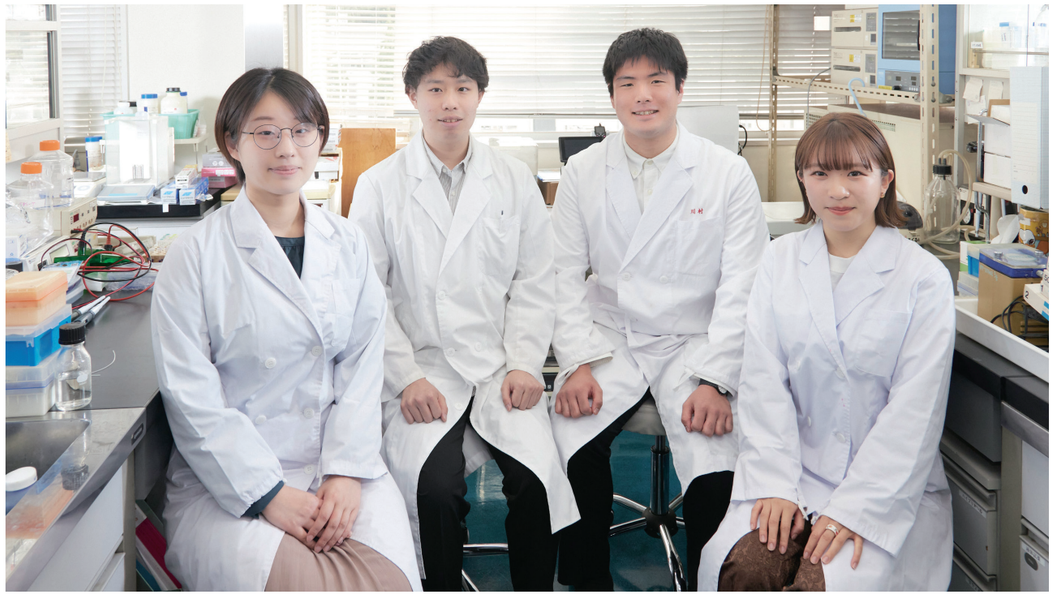
土壌物理学
土をつかって未来を拓く

佐藤 直人 助教／博士（農学）
月や火星などの低重力環境下における宇宙農業を実現するため、多孔質体中の水分挙動に対する重力の影響を明らかにし、適切な灌漑技術の確立を目指しています。

※研究者は退職等により変更となる場合があります。　※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

農芸化学科 Department of Agricultural Chemistry

人間生活に密着したバイオサイエンスを学ぶ



農芸化学科では、私たちの生活にかかわりの深い食品や環境分野の問題を、バイオテクノロジーと最新のサイエンスによって解決することを目指しています。微生物を用いた環境にやさしい技術の開発、おいしくて健康に良い食品の研究開発、植物生産や環境の資源である土壌の研究、動植物や微生物が生産する有用物質の検索など、農芸化学のフィールドには多くの重要な研究テーマがあります。

こうした分野で社会に貢献できる人材を育てるために、農芸化学科では豊富な実験・実習（1・2年次）と2年間かけて取り組む卒業研究（3・4年次）をカリキュラムの中心にすえています。バイオサイエンスの基礎知識と実験技術をもつ卒業生は、食品・医薬・化学などの幅広い分野で活躍しています。

目指す将来イメージ

- 食品関連会社の研究開発、営業
- 医薬品・化粧品関連会社の研究開発、営業
- 国家公務員、地方公務員
- 教員
- 大学院進学

教員からのメッセージ

化学で生物を眺め 食・農・環境問題に 取り組む

環境分析化学研究室
安保 充 准教授

当たり前だと思っている生命現象も、科学的に説明できないことは数多くあります。それをバイオテクノロジーも駆使した化学をツールとして説明に挑みます。またさらに、それを応用利用することに重きを置いているのも当学科の特徴です。

研究対象は動物・植物・微生物・土壌・環境・食品と範囲が広いため、多くの知識や技術を身につけなければなりませんが、その中からあなたの興味に合った専門を見つけることができるでしょう。

具体的には1・2年次で有機化学、生化学、分子生物学、微生物学等の基礎を学び、3・4年次で専門を学びながら、研究室に所属して卒業研究を行います。一緒に農芸化学分野で、新たな発見をしたり、問題を解決したりしてみませんか！

[学科主要科目]

基礎科目群

	1年次		2年次	
必修	生物学(2) 必修化学(2) 生化学Ⅰ(2) 微生物学Ⅰ(2)	有機化学(2) 生化学Ⅱ(2) 微生物学Ⅱ(2) 基礎分子生物学(2)	環境科学(2) 分子生物学(2) 植物栄養学(2) 物理化学(2)	生物有機化学(2) 有機分析化学(2) 食品化学(2) 土壌化学(2) 栄養科学(2)
選択	農芸化学(2) 地学概論(2) 化学実験(1) 地学実験(1)		細胞生物学(2) 基礎生物統計学(2) 物理学(力学・熱力学)(2) 物理学実験(1)	物理学(電磁気学・光学)(2) 数学概論(2)

専攻科目群

	1年次		2年次	
選択	微生物学実験(1)	生化学・物理化学実験(2) 環境化学実験(1)	微生物生理学(2) 有機化学・有機分析実験(2) 環境分析実験(1)	食品化学・食品分析実験(1) バイオテクノロジー実験(1) 植物栄養学(2) 食品衛生学(2)

3年次

食品分野	生物機能分野	環境分野
食品機能化学(2) 発酵食品学(2) 栄養生化学(2) 食品生化学(2) 食品工学(2)	天然物有機化学(2) 応用生化学(2) 生物機能化学(2) 生物物理学(2) ケミカルバイオロジー(2)	土壌圏科学(2) 微生物生態学(2) 微生物遺伝学(2) 環境分析化学(2) 植物環境制御学(2) 微生物化学(2) 環境バイオテクノロジー(2)

3・4年次

食品分野	生物機能分野	環境分野
食品免疫学(2) 食品健康科学(2) 食品冷凍冷蔵学(2) 食品安全学(2)	農薬化学(2) 生命システム工学(2) 高分子化学(2) 応用微生物学(2)	環境安全学(2) 環境化学(2) 環境微生物学(2) 土壌環境保全学(2)

卒論関係科目群

選択

3・4年次履修
文献調査(4)・特別研究(卒論)(4)

※カリキュラムは変更となる場合があります。　※(　)内は単位数。

詳しくはホームページへ。 https://www.meiji.ac.jp/agri/department/agri_chemi/cr_nobake.html

[農芸化学科の4年間の学び]

1年次

新しい環境での生活

農芸化学科1年
藤本 拓真
大阪府立生野高等学校卒業

農芸化学科の1年次では、初めて学ぶことや体験することがたくさんあります。化学実験では、高校で学習したが実験はしなかった分野の実験を行うので、知識だけだったものが実際に自分の目で見ることによってさらに理解が深まりとても面白いです。また、この学科は必修科目がとても多く、実験や講義を通して人との交流が多いため友達もできやすいので楽しい1年間になると思います。

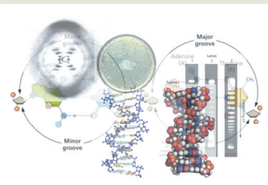
〈 時間割の例(1年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	英語コミュニケーション	スペイン語Ia スペイン語Ib	必修化学 有機化学	微生物学I 生化学II	心理学B	–
2	スポーツ実習I 運動学	日本の歴史A	スペイン語IIa スペイン語IIb	英語Ia 英語Ib	生化学I 基礎分子生物学	–
3	ICTベーシックI 生化学・物理化学実験	微生物学実験 生化学・物理化学実験	化学実験 環境化学実験	英語III 微生物学II	日本国憲法 フィールド先端農学	–
4	生化学・物理化学実験	微生物学実験 生化学・物理化学実験	化学実験 環境化学実験	–	英語III	–
5	–	–	社会学	–	農芸化学	–

授業紹介 **基礎分子生物学**

生命のしくみを分子レベルで理解する

分子生物学は比較的新しい学問で、学習を始める者にとって難しい抽象的な概念を含んでいます。一方で、新聞やニュースが理解でき、身近な健康、医療、環境において十分に判断するために不可欠な知識ともなっています。さらに、分子生物学は日進月歩でその内容も広く深くなっています。この講義では、基本となる事項を中心に理解を進めるために、重要な概念は繰り返していねいに取り扱うようにしています。理解の助けになるようにイラストや動画を効果的に使用するだけではなく、話題となった事柄についてはなるべく取り上げ、簡単に解説しています。
(前田 理久教授)



DNAのイメージ

2年次

主体的に活動する1年間

農芸化学科2年
猪狩 百花
神奈川県立相模原中等教育学校卒業

2年次では、研究室配属やその後の進路を見据えて将来のことを考え始めます。大学生活に慣れ1年次に比べて余裕が生まれる一方で、講義や実験では専門的な内容が増えるため、自主的に勉強を行うことがとても重要です。また、余裕があることで何ごとにも挑戦でき、自分自身が何をしたいのかを考え直し情報収集や科目選択を行うことで大学生活がより充実したものになります。

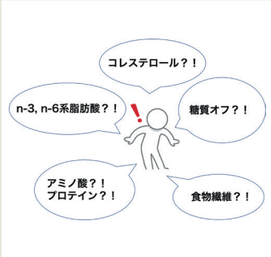
〈 時間割の例(2年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	物理化学 有機分析化学	ICTメディア編集I ICTメディア編集II	分析化学	英語III 英語III	環境科学 土壌化学	–
2	食品化学	分子生物学 栄養科学	英語IIa 英語IIb	植物栄養学	–	–
3	有機化学・有機分析実験	有機化学・有機分析実験 バイオテクノロジー実験	環境分析実験 食品化学・食品分析実験	–	フィールド先端農学 科学英語	–
4	有機化学・有機分析実験	有機化学・有機分析実験 バイオテクノロジー実験	環境分析実験 食品化学・食品分析実験	–	–	–
5	–	–	–	–	–	–

授業紹介 **食品化学**

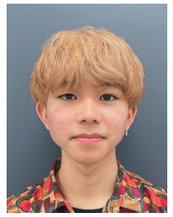
食品の基礎を学ぶ

食品は私たちが食事のたびに口にする身近なものです。食品からの栄養素の摂取が生命や健康の維持に必要であることはもちろんですが、おいしさや病気予防効果も食品の機能であると考えられています。この講義では、栄養素として機能する食品成分の構造、性質、はたらきについて学びます。農芸化学科のカリキュラムには食品系科目が多くありますが、その基礎として位置づけられる講義です。普段よく耳にする食に関する情報をきちんと理解できるようになることを目指して、講義を進めています。
(竹中 麻子教授)



3年次

基礎から より専門的な学びへ



農芸化学科3年
松浦 太亮
東京都私立東京農業大学第一高等学校卒業

3年次では、食品・化学・環境・微生物などの幅広い分野から興味がある授業を選択し、より専門的に学ぶことができます。
また3年次の春からは、ほとんどの学生が研究室に所属し、1・2年次で学んだ基礎知識を実践に活かします。先輩の卒業論文や、英語の文献を参考にして自ら計画を立てて研究を進めるため、大変なこともありますが、納得する結果が得られたときには大きな達成感があります。

〈 時間割の例(3年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	科学英語	生物機能化学	応用生化学 環境微生物学	天然物有機化学 環境バイテク	微生物生態学	食品免疫学
2	ケミカルバイオロジー	食品機能化学 農業化学(隔週)	発酵食品学 食品生化学	土壌圏科学 卒論研究	卒論研究 動物資源化学	卒論研究
3	卒論研究	卒論研究 農業化学(隔週)	構造解析ゼミ	卒論研究	卒論研究 進捗報告会	–
4	英語輪読会	環境化学(隔週)		進捗報告会 卒論研究	卒論研究	–
5	食品冷凍冷蔵学	環境化学(隔週)	–	卒論研究	卒論研究	–

研究室REPORT **天然物有機化学研究室**

身の周りにはお宝の化合物が・・・。

私たちの身の周りの植物、動物、微生物など多くの生物が多種多様な有機化合物を作っています。このような有機化合物は天然有機化合物と呼ばれ、モルヒネ、ペニシリン、メントール、インディゴなどこれらの化合物の一部は、医薬品、香料、染料などとして利用されています。当研究室では、このような有用物質の探索をするとともに、ある現象を引き起こす原因物質の解明を目指して、研究を推進しています。

担当教員より
荒谷 博
教授

当研究室では、アレロパシーやエンドファイトに着目しつつ、様々な生物を対象に天然物有機化学研究を展開しています。有機化学は天然物有機化学の基本であり、学生には基礎をしっかりと身につけることを強く意識させています。

4年次

研究を通じて成長する

農芸化学科4年
中山 なつみ
東京都私立拓殖大学第一高等学校卒業

4年次は授業をほとんど履修しないため、研究室での活動が中心となり、卒業論文執筆のための卒業研究に取り組みます。自ら実験計画を立て、その結果をもとに次の実験を考え、と自分で考える力や実行力が身につきます。行っている実験は違っても、同じ研究室で長い時間を共に過ごすことで仲間ができます。研究活動を通じて、とても充実した大学生活を送ることができます。

〈 時間割の例(4年次) 〉　上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究
2				研究ゼミ		
3				卒業研究		
4						
5					文献ゼミ	

研究室REPORT **微生物生態学研究室**

麹菌の不思議なタンパク質

麹菌が生産するタンパク質(ハイドロフォービン)の研究をしています。ハイドロフォービンは糸状菌類が空気中に菌糸を伸ばす際に必要な両親媒性タンパク質であり、疎水性の基材に吸着させると表面を親水性にし、親水性の基材に吸着させると疎水性にする特徴があります。当研究室では、麹菌に9種類存在するハイドロフォービンのそれぞれについて特徴と使い分けを明らかにし、麹菌研究の発展に貢献することを目指しています。

担当教員より
中島 春紫
教授

清酒や醤油・味噌の醸造に用いられる麹菌から9つのハイドロフォービン遺伝子を発見しています。それぞれ個性的でユニークな物性を示すことが分かってきましたが、取り扱いが難しく、いろいろな工夫を凝らしながら解析を進めています。

卒業生からのメッセージ

大きく成長できる4年間

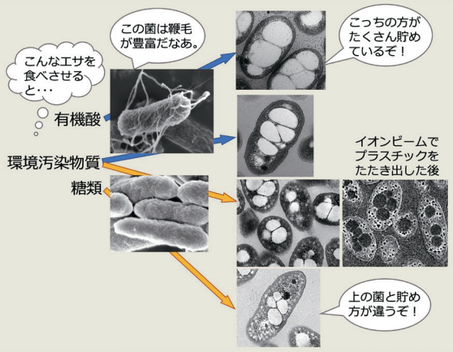
2020年
農芸化学科卒業
横川 大祐
明治大学大学院農学研究科
農芸化学専攻博士後期課程1年

農芸化学は私たちの生活に深く関わる食品や環境などの問題の解決手段として、生物学や化学などの幅広い分野の知識や技術を利用します。本学科では、そのための講義や実習が豊富に用意されており、これらを通して思考力・計画力・実践力を養っていくことができます。農芸化学科での学生生活は忙しいながらも大きく成長できる4年間だと思います。ぜひ、皆さんも経験してみませんか？

TOPICS 微生物による環境にやさしいものづくり

環境汚染物質から環境にやさしいものをつくる

微生物の中には将来の炭素源の備蓄のために体内にプラスチックを貯めるものがいます。一方で環境汚染物質を分解する微生物もいます。われわれの研究室では種類の異なるプラスチックを環境汚染物質からつくる微生物を用いて研究を進めています。微生物や食べるエサが異なると、プラスチックの貯め方や貯めたものの形はさまざまです。プラスチックは細胞の中に“かたまり”(顆粒)で貯められます。まるで細胞質にプカプカと浮いて存在するように見えます。どのように貯められているのかを詳細に研究し、生産性や物性の改善を目指しています。(前田 理久 教授)



DATAでわかる農芸化学科

■ 在籍状況 (2023年4月1日現在)

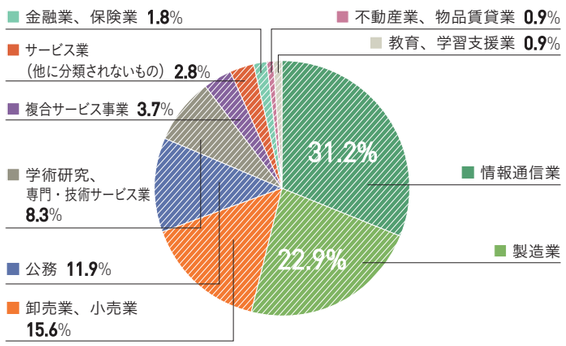
	男子	女子	合計
1年	39(25%)名	114(75%)名	153名
2年	53(33%)名	107(67%)名	160名
3年	43(30%)名	98(70%)名	141名
4年	43(35%)名	80(65%)名	123名
合計	178(31%)名	399(69%)名	577名

■ 研究室状況 (2023年4月1日現在)

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
18	12人	94.7%

■ 2022年度進路状況

■ 2022年度就職実績



■ 主な就職先 (大学院生を含む)

・NECソリューションイノベータ(株)	・食品衛生監視員(国家公務員 専門職)	・(株)ユニカフェ
・国家公務員(一般職)	・全国農業(協組連)本所	・アサヒ飲料(株)
・(株)日立システムズ	・TIS(株)	・サッポロビール(株)
・エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)	・デリカフーズ(株)	・ちふれホールディングス(株)
・(株)エヌ・ティ・ティ・データ	・東京都庁	・日清オイリオグループ(株)
・大塚製薬(株)	・(一財)日本食品分析センター	・(株)ロッテ
・カネコ種苗(株)	・富士通Japan(株)	

[農芸化学科の教育・研究スタッフ]

農芸化学科のホームページはこちら！

https://meiji-agrichem.jp/

天然物有機化学研究室

生物間相互作用物質をつきとめる

荒谷 博 教授／博士(農学)

生物は生合成した多様な化合物を周辺へ放出し、他生物へさまざまな影響を与えています。これらの物質の解明は「宝探し」に似ています。

食品機能化学研究室

味覚の不思議に迫る

石丸 喜朗 教授／博士(農学)

味蕾や消化管の細胞が食品などを感知する仕組みを明らかにして、健康に良い食品成分を同定することを目指しています。

食品安全健康科学研究室

食品成分の機能性を追究

長田 恭一 教授／博士(農学)

ポリフェノール等の食品成分が有する健康維持増進機能、とくに、脂質代謝調節機能について追究しています。

ケミカルバイオロジー研究室

生物のもつ物質生産能力に迫る

久城 哲夫 教授／博士(薬学)

植物や微生物がつくり出す有用成分の生合成と、遺伝暗号の成立に不可欠なアミノアシルtRNA合成酵素の新規機能の探索研究を行っています。

食品生化学研究室

食品のもつ新しい力

竹中 麻子 教授／博士(農学)

食事から摂る成分が変わると、体にはさまざまな変化が起こります。このメカニズムを研究し、食品の新しい機能を探索しています。

微生物生態学研究室

麹菌の細胞表層タンパク質ハイドロフォービンの機能解析と新素材への応用

中島 春紫 教授／農学博士

麹菌というカビは働き者で食べても安全。麹菌の細胞表層で水を弾く謎のタンパク質の機能の解明と新素材開発を目指しています。

食品工学研究室

おいしさを食品構造から追究

中村 卓 教授／農学博士

タンパク質・多糖類・油脂の食品構造の制御によるおいしさ(食感と風味)のデザインと効率的食品加工を目指します。

微生物遺伝学研究室

微生物の無限の可能性を信じて

前田 理久 教授／博士(農学)

微生物はすばらしいパワーをもっています。そのパワーのルーツ、仕組みを研究し、環境にやさしい技術の開発に取り組んでいます。

微生物化学研究室

スーパー微生物を探し出そう

村上 周一郎 教授／博士(農学)

当研究室では、自然環境から微生物界のスーパーマンを見つけ出し、食品や環境などさまざまな分野で利用することを目指し、研究を進めています。

環境分析化学研究室

環境ストレスを化学でとらえる

安保 充 准教授／農学博士

環境という見えにくい分析対象を化学的にとらえられるようにするため、ストレス物質だけでなく、生体の環境応答も研究しています。

環境バイオテクノロジー研究室

微細藻類による光と二酸化炭素からのものづくり

小山内 崇 准教授／博士(農学)

ラン藻などの藻類を用いて、光と二酸化炭素からプラスチック原料や水素などの有用物質および再生可能エネルギーを効果的につくる方法の開発を行っています。

土壌圏科学研究室

土壌化学から食糧生産と都市環境保全へ

加藤 雅彦 准教授／博士(農学)

土壌は地球環境を構成する重要な要素です。研究室では、目に見えない土壌の中を研究し、都市環境保全や食糧生産など目に見えることに貢献しています。

ゲノム微生物学研究室

ゲノム発現制御から細胞システムを理解する

島田 友裕 准教授／博士(工学)

生命の情報源はゲノムです。そのゲノム情報を利用する仕組みを分子レベルで解明することから、細胞システムの全体像の理解・応用を目指しています。

生物物理学研究室

生物のもつ暗号文解読への挑戦

鈴木 博実 准教授／理学博士

コンピュータを利用して配列(アミノ酸配列・ゲノム配列)と構造・機能との関連性の解明という暗号文解読に挑戦しています。

植物制御化学研究室

植物ホルモンによる植物の成長制御メカニズムの解明

瀬戸 義哉 准教授／博士(農学)

動くことのできない植物が、ホルモン分子を利用して、環境に適応しながら生きるメカニズムを分子レベルで明らかにします。

植物環境制御学研究室

人の生活は植物に支えられている

中林 和重 准教授／農学博士

植物の生育する環境を人為的に制御して高品質で多収穫が可能な生産技術を研究・開発しています。特に光環境と栄養(肥料)環境に重点をおいています。

栄養生化学研究室

食と脳のコミュニケーションを理解する

金子 賢太朗 専任講師/博士(農学)

脳の食欲中枢である視床下部と食成分の相互作用に関する研究を行い、食の持つ健康機能について明らかにすることを目指しています。

発酵食品学研究室

発酵食品の機能性に着目し、腸内細菌を介したヒトに対する健康効果の機構を明らかにする

山田 千早 専任講師／博士(農学)

発酵食品を作る微生物や腸内細菌がどのような機能性成分を作ることでヒトの健康に役立っているのかを明らかにすることを目指して研究を行っています。

生化学

二酸化炭素からプラスチック原料をつくる仕組みに迫る

伊東 昇紀 助教/博士(農学)

ラン藻という微生物は、二酸化炭素からプラスチック原料をつくります。プラスチック原料の増産に向けて、ラン藻の代謝の流れを決める要因の解明に挑戦しています。

食品科学

味の受容メカニズムを明らかにする

中北 智哉 助教/博士(農学)

ショ糖は甘味受容体を刺激するから、甘い。ごく当たり前なこの現象を分子レベルで理解することで優れた味覚調節物質の開発を目指します。

植物ケミカルバイオロジー

人工分子で植物を操る

西山 康太郎 助教／博士(理学)

分子レベルのものづくりができる化学の力で、植物のすがた・かたちをあやつる「薬」を開発し、植物のしくみの解明や、農業への応用を目指しています。

味覚受容の分子機構解明

「おいしい」の本質を理解する

戸田 安香 特任講師/博士(農学)

動物の食性に応じて、口の中などに存在する味センサー(味覚受容体)の機能がどう変わってきたのかを解明するために研究を行っています。

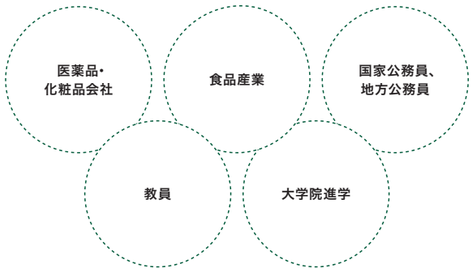
※研究室は退職等により変更となる場合があります。 ※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

▶生命科学科 Department of Life Sciences

生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

生命科学科では、動植物や微生物の生命活動を分子レベルや遺伝子レベルから理解することを基盤として、これらを人類が直面している環境や食糧問題などの解決に活用することを目指しています。本学科では、生命科学の分野で専門家として活躍する人材や、生命科学の素養と同時に広い視野と総合的な判断力をもった人材の育成を進めています。こうした目標を達成するために、段階的な学習プログラムを用意しているのも本学科の特長といっていいでしょう。1・2年次は、基礎から専門分野までを体系的に学ぶことができる授業と実験のカリキュラムを組み、3年次からは各自が興味をもった研究室に属して最先端の設備と技術を駆使しながら卒業研究に取り組むことになります。生命の謎に好奇心をもち、生物のもつ能力を人類のために役立てたいと考える、意欲的な学生を歓迎します。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

健康、環境問題の解決に資する生命科学研究

細胞情報制御学研究室
戸村 秀明 教授

人口増加による食糧不足や経済発展に伴う廃棄物の増加が、人類の健康や地球環境を脅かし始めています。石炭・石油や化学肥料・農薬の大規模、継続的な使用によりこれらの問題の解決を目指すこれまでの試みは、環境汚染、資源の枯渇、地球温暖化などを招く要因ともなることから、困難なものとなりつつあります。健康、環境問題の解決に、持続・再生可能な生物機能の積極的な利用が求められています。生命科学は多様な生物のゲノム情報を基盤として、分子・個体・集団レベルで生命現象を解き明かそうとする研究分野ですが、その研究過程で見いだされる新たな生物機能の発見が、上記問題の克服への解決の糸口となることも期待されています。

[学科主要科目]

専門の基礎を学ぶ ▶基礎科目群

1年次

生命科学入門(2)
化学要論(2)
動物生命科学(2)
植物生命科学(2)
分子生物学入門(2)
細胞生物学(2)
遺伝学(2)
生物有機化学(2)
生化学Ⅰ(生体成分・酵素)(2)
微生物学Ⅰ(2)
インターンシップ(1)

2年次

分子生物学(2)
生化学Ⅲ(植物代謝)(2)
地学概論(2)
生化学Ⅱ(動物代謝)(2)
バイオインフォマティクス入門(2)
数学概論(2)
物理学概論(2)
インターンシップ(1)

3年次

物理学実験(1)
地学実験(1)
インターンシップ(1)

より深く専門を学ぶ ▶専攻科目群

1年次

生命科学実験Ⅰ(2)
生命科学実験Ⅱ(2)

2年次

動物を中心に学ぶ

動物生理学Ⅰ(2)
生体機構学Ⅰ(2)
タンパク質科学Ⅰ(2)
微生物学Ⅱ(2)
植物細胞生物学(2)

動物生理学Ⅱ(2)
生殖生物学(2)
生体機構学Ⅱ(2)
生体防御学(2)
分子遺伝学(2)
環境応答生物学(2)
動物再生システム学(2)

植物を中心に学ぶ

植物細胞生物学(2)
植物環境生理学(2)
タンパク質科学Ⅰ(2)
微生物学Ⅱ(2)
動物生理学Ⅰ(2)
環境応答植物学(2)

植物工学(2)
植物機能制御学(2)
環境応答生物学(2)
分子遺伝学(2)
生体防御学(2)
生殖生物学(2)

微生物を中心に動物、植物共通な事柄を学ぶ

微生物学Ⅱ(2)
タンパク質科学Ⅰ(2)
植物細胞生物学(2)
動物生理学Ⅰ(2)
植物環境生理学(2)
環境応答植物学(2)

分子遺伝学(2)
環境応答生物学(2)
生殖生物学(2)
生体防御学(2)
植物工学(2)
動物生理学Ⅱ(2)

生命科学実験Ⅲ(2)
生命科学実験Ⅳ(2)

3年次

動物栄養学Ⅰ(2)
分子発生学(2)
発生工学(2)
生体制御学(2)
遺伝子工学(2)
ゲノム機能工学(2)
細胞情報制御学(2)
生物統計学(2)
ウイルス学概論(2)
バイオインフォマティクス(2)

動物栄養学Ⅱ(2)
生体機能物質学(2)
実験動物学(2)
糖鎖生物学(2)
タンパク質科学Ⅱ(2)
生物物理学(2)

発生工学(2)
生体制御学(2)
遺伝子工学(2)
分子発生学(2)
ゲノム機能工学(2)
細胞情報制御学(2)
生物統計学(2)
ウイルス学概論(2)
動物栄養学Ⅰ(2)
バイオインフォマティクス(2)

植物分子生理学(2)
糖鎖生物学(2)
タンパク質科学Ⅱ(2)
生体機能物質学(2)
微生物工学(2)
生物物理学(2)

ウイルス学概論(2)
遺伝子工学(2)
ゲノム機能工学(2)
細胞情報制御学(2)
発生工学(2)
分子発生学(2)
生体制御学(2)
動物栄養学Ⅰ(2)
生物統計学(2)
バイオインフォマティクス(2)

微生物工学(2)
糖鎖生物学(2)
タンパク質科学Ⅱ(2)
生体機能物質学(2)
植物分子生理学(2)
生物物理学(2)

3・4年次履修

▶卒論関係科目群　文献調査・特別研究(4)　文献調査・特別研究(卒論)(4)

生命科学分野の専門家（大学院、研究者）　生命科学分野の基礎知識をもった公務員、企業人、教員等

※カリキュラムは変更となる場合があります。　※(　)内は単位数。

詳しくはホームページへ。 https://www.meiji.ac.jp/agri/department/life_science/cr_life.html

[生命科学科の4年間の学び]

1年次

自分の興味を探す1年

生命科学科1年
石本 泰基
福井県立藤島高等学校卒業

1年次では、専門的な内容を学ぶ準備として生命科学の基礎を学びます。自由に選択して授業を受けられるので、興味のあることについて深く学んでいくことができます。自分は好きなことを見つけるために様々な分野の授業を取っています。

また、生命科学入門では生命科学科の18人の専任教員から自身の研究についての話を聞くことができ、自分の興味関心を発見するきっかけになると思います。

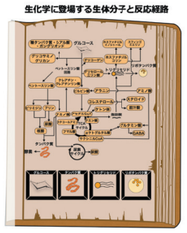
〈 時間割の例（1年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	民俗学	–	植物生命科学	フランス語Ⅰa フランス語Ⅰb	–
2	動物生命科学 細胞生物学	フランス語Ⅱa フランス語Ⅱb	化学要論 ICTベーシックⅡ	化学基礎 生物有機化学	英語Ⅰa 英語Ⅰb	–
3	生命科学実験Ⅰ 生命科学実験Ⅱ	スポーツ実験Ⅰ 遺伝学	ICTベーシックⅠ	微生物学（生命） 生化学Ⅰ	生命科学実験Ⅰ 生命科学実験Ⅱ	–
4	生命科学実験Ⅰ 生命科学実験Ⅱ	分子生物学入門 健康科学	–	英語Ⅲ	生命科学実験Ⅰ 生命科学実験Ⅱ	–
5	–	–	–	–	生命科学入門	–

授業紹介 生化学Ⅰ（生体成分・酵素）

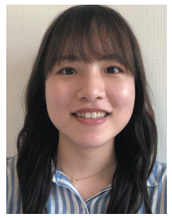
生化学という物語を読む力をつけよう

生命科学の急速な進歩に伴い、多くの生命現象が解明されつつあります。生体内で起きる生命現象は突きつめると連続した化学反応であり、複雑な生命現象を化学反応へと紐解いていくことが生化学を学ぶこととともいえます。生化学を物語とするならば、生体成分や酵素は、物語の登場人物であり、登場人物の特徴や役割は物語を理解するうえで重要です。講義では、生体成分や酵素の性質や機能について知り、2年次以降の専門的な講義を学ぶうえでの基礎を築きます。暗記を伴う分野ですが、クイズ感覚で受検できる小テスト機能を利用することで、学びを楽しめるように工夫しています。
（佐藤 伴助教）



2年次

自分の興味と向き合う1年



生命科学科2年
常住 千春
福岡県私立筑紫女学園高等学校卒業

2年次では、専門科目の授業を多く履修できるようになります。授業では、教科書では学べない最先端の情報に触れる機会が多くあり、現象を理解し疑問を持つことを大切にしています。幅広く講義をとっていますが、思わぬところで知識がつながることも多く、興味が深まることも多いです。また、秋学期には研究室選びもあるので自分が将来進みたい方向を定める一年になります。

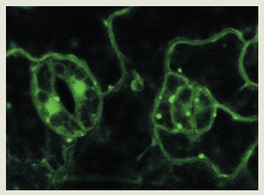
〈 時間割の例（2年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	分子生物学	植物細胞生物学 民俗学	英語Ⅱa 英語Ⅱb	–	生体機構学Ⅰ 植物工学	–
2	英語Ⅲ	経済学 生体防御学	微生物学Ⅱ	–	生体機構学Ⅱ	–
3	タンパク質科学 動物再生システム学	生命科学実験Ⅲ 生命科学実験Ⅳ	生命科学実験Ⅲ 生命科学実験Ⅳ	–	フィールド先端農学	–
4	生殖生物学	生命科学実験Ⅲ 生命科学実験Ⅳ	生命科学実験Ⅲ 生命科学実験Ⅳ	–	環境応答生物学	–
5	分子遺伝学	–	動物生理学Ⅰ 動物生理学Ⅱ	–	バイオインフォマティクス入門	–

授業紹介 植物細胞生物学

オルガネラが支える植物の高次機能

私たちの生活の周りにあふれている多種多様な植物は、動物や微生物とは異なり、一度大地に芽生えると根を張り移動することはできません。そのため植物は様々な環境変化に適応しながら生存していますが、それにはオルガネラの機能発現や動的変動が必要不可欠です。「植物細胞生物学」では、他の生物には見られない植物独自の高次機能を、植物特異的なオルガネラの構造や動態、機能などの視点から学ぶことで、植物のしたたかさをミクロの視点で理解することができます。また、講義では、これら基礎的知識から農学など幅広い分野への応用展開の試みなどについても紹介します。
（吉本 光希教授）



栄養飢餓時に植物の葉の表皮細胞で誘導されたオートファジー小胞（緑色ドット状構造）の様子

3年次

知識に裏付けられる研究を味わう

生命科学科3年
星 孝哉
東京都立新宿高等学校卒業

生命科学科では、基礎から専門性の高い授業が動物・植物・微生物等に系統的に大別されており、自分の興味ある分野の授業を様々な選択肢から選び、学ぶことができます。3年次では研究室に入室し、卒論研究課題を遂行するための活動が始まるとともに、授業においても1・2年次に比べてより専門性の高い授業を履修することが可能になり、知識に裏付けられた研究を進めることができます。

〈 時間割の例（3年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	動物栄養学Ⅰ 動物栄養学Ⅱ	–	卒業研究	ウイルス学概論	–	–
2	植物分類・形態学 運動学	バイオインフォマティクス 食生活の科学		登戸研究所	英語農学Ⅰ（生命） 英語農学Ⅱ（生命）	–
3	分子発生学 卒業研究	生体制御学 糖鎖生物学	研究室ゼミ	卒業研究 微生物工学	フィールド先端農学 卒業研究	–
4	日本語表現A 卒業研究	–	卒業研究	卒業研究	明治大学の歴史Ⅰ	–
5	–	–	先端医療概論	–	–	–

研究室REPORT 環境応答植物学研究室

同じ受容体が敵にも味方にも働く？

お米は日本の主食であるため、イネは日本の重要な作物であります。私たちの研究室では、イネの防御応答機構に関わる受容体の構造と機能を中心に研究を進めています。これまでの研究により、同一のイネLysM受容体が防御応答だけでなく、菌根菌共生応答にも関与することを見出しています。現在、私たちはこの受容体がどのように敵分子と味方分子を区別しているのかを解明するために様々なアプローチで研究を進めています。

担当教員より
賀来 華江
教授

植物は移動しないにも関わらず、植物はそう簡単に病気にならないです。本研究室では、植物の持つ「自己防衛力（免疫）」のメカニズムを解き明かし、これらの情報に基づいて、病気に強い作物の作出のための基礎研究を行っています。研究が進めば進むほど、多くの「不思議なこと」に出会い、生き物の「生きること」に対するしたたかさに感動します。

4年次

試行錯誤の大切さを学ぶ

生命科学科4年
田中 紬
東京都私立田園調布学園高等部卒業

4年次では主に研究室活動が中心となります。各自が研究テーマを持ち、計画を立てながら実験を進めています。時には、思うような結果が出ず原因の解明に悩まされることもありますが、先生や先輩方にアドバイスをいただきながら自分なりに考察し試行錯誤することに対して面白さを感じています。学部生としての最後の1年に「真剣に取り組む」という経験ができたことを嬉しく思います。

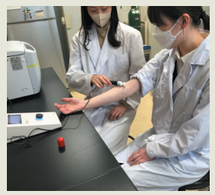
〈 時間割の例（4年次）〉 上段：春学期、下段：秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	研究室活動	研究室活動	研究室活動	研究室活動	研究室活動	–
2						–
3						–
4						–
5						–

研究室REPORT 動物栄養学研究室

体内から美や健康を支える腸内細菌

私たちの研究室では、腸内細菌の生理機能解明に向けて様々な研究を行っています。その中の1つとして、皮膚の保水やバリア機能を持つ「セラミド」に着目しています。セラミドは食事から得られる「グルコシルセラミド」の分解により生成されますが、体内の消化酵素では大部分が分解できません。そこで私たちは、当研究室で発見されたグルコシルセラミドの分解能を持つ腸内細菌の生理機能を調査し、美容効果の向上を目指しています。



担当教員より
浅沼 成人
教授

目には見えない小さな微生物が、私達のお腹の中や皮膚の上で暮らしています。その中には、特別な能力を持ち、我々の生活に役立つものがいます。この有益な細菌を見つけ出し、健康や美容に役立てようと、教員と学生で協力して研究を進めています。

卒業生からのメッセージ

将来の可能性を広げられる場所

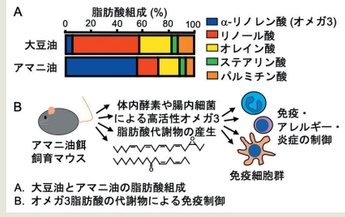
2018年
生命科学科卒業
米澤 瞳
田園都市レディースクリニック
培養部門勤務

生命科学科では、動物、植物、微生物分野などにおいて幅広く学ぶことができます。私は生殖生物学に興味を持ち、3年次から研究室で実際に深く学ぶことで大学で学んだことを将来に活かしたいと思い、現在は不妊治療のクリニックで胚培養士として働いています。責任感のある大変な仕事ですが、不妊で悩む方々の手助けができ、とてもやりがいを感じています。皆さんも充実した大学生活の中で興味のある分野を見つけてみてください。

TOPICS 食で免疫・アレルギー・炎症を制御する

オメガ3脂肪酸の代謝物による免疫制御

免疫システムはアレルギーや炎症性疾患、感染症の発症や重篤化など、様々な局面で私たちの健康に関与しています。当研究室では、免疫を制御する因子として「食」に着眼した研究に取り組んでいます。例えば「油」に関し、私たちが日常的に摂取する油に植物性食用油がありますが、その脂肪酸組成は植物原料により異なっています。必須脂肪酸の一つであるオメガ3脂肪酸の含有量は多くの食用油において僅かですが、アマという植物の種子から得られるアマニ油には多く含まれています。そこで私たちは、実験用マウスの餌の原料にアマニ油を使った研究を行いました。その結果、大豆油含有の通常餌で飼育した場合に比べて、各種アレルギー症状が抑制されることを見出しました。さらに、オメガ3脂肪酸に由来する複数の高活性代謝物を同定し、これらが免疫細胞に働くことでアレルギー反応が抑制される分子機構を解明しました。このことから、同じものを食べても代謝に関わる体内の酵素活性や腸内細菌叢の個体差により、食の免疫効果が異なってくることが予想されます。本研究をさらに推進し、個々に最適な個別化／層別化栄養・医療の提供を目指しています。
(長竹 貴広准教授)



A: 大豆油とアマニ油の脂肪酸組成
B: オメガ3脂肪酸の代謝物による免疫制御

DATAでわかる生命科学科

■ 在籍状況 (2023年4月1日現在)

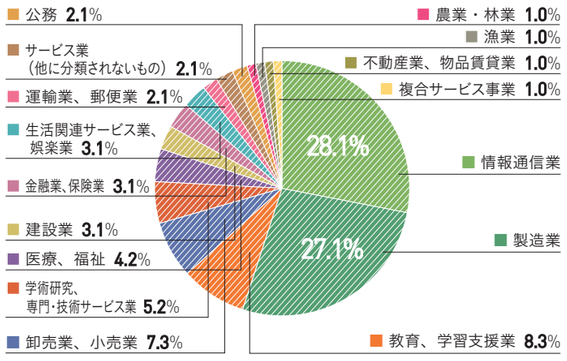
	男子	女子	合計
1年	82(52%)名	77(48%)名	159名
2年	87(58%)名	64(42%)名	151名
3年	77(52%)名	72(48%)名	149名
4年	63(48%)名	69(52%)名	132名
合計	309(52%)名	282(48%)名	591名

■ 研究室状況 (2023年4月1日現在)

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
18	13人	93.2%

■ 2022年度進路状況

■ 2022年度就職実績



■ 主な就職先 (大学院生を含む)

・富士通 (株)	・(株)四谷大塚	・日本光電工業 (株)
・ＥＰＳホールディングス (株)	・オムロン (株)	・P&Gジャパン (同)
・NECソリューションイノベータ (株)	・カゴメ (株)	・(株)Ｍｉｚｋａｎ
・国家公務員 (一般職)	・キリンホールディングス (株)	・(株)明治
・パーソルテンプスタッフ (株)	・テルモ (株)	・(株)ヤクルト本社
・(株)日立製作所	・日清オイリオグループ (株)	・ライオン (株)
・(株)陽進堂	・日本ハム (株)	

[生命科学科の教育・研究スタッフ]

生命科学科のホームページはこちら！

https://meiji-lifesci.jp/

動物栄養学研究室

微生物のちからでキレイに健康に

浅沼 成人 教授／博士（農学）

バイオテクノロジーを駆使して有益な微生物を作出し、①健康と美容、②環境問題、③食糧生産に役立てる研究を行っています。

ゲノム機能工学研究室

細胞・体の個性を決めるエピジェネティクス

大鐘 潤 教授／博士（農学）

機能性RNA等を利用したエピジェネティック改変により動物のゲノム機能を人為的に調節し、有用細胞・家畜や病態モデル動物の作出を目指します。

環境応答植物学研究室

植物の“生きる”知恵を探る

賀来 華江 教授／学術博士

植物の外敵識別機構およびその情報シグナル伝達系の解明を目指し、地球環境にやさしい作物の開発の基礎研究に貢献します。

植物分子生理学研究室

温度は植物成長のシグナル

川上 直人 教授／農学博士

種子の発芽や花の形成は温度に左右されます。温度を感知して成長を制御する仕組みを明らかにし、気候変動への対応を考えます。

プロテオミクス研究室

プロテオミクスから探る生命科学

紀藤 圭治 教授／博士（理学）

タンパク質の系統的解析から生命現象を探るプロテオミクス研究に、質量分析を用いた独自の解析手法を駆使して取り組んでいます。

細胞情報制御学研究室

体の機能を調節する新たな仕組みを探る

戸村 秀明 教授／理学博士

動物に備わる新たな生体調節機能の解明を目指し、ホルモンを代表とする生理活性物質に対する受容体を介した情報伝達系を解析しています。

メディカル・バイオエンジニアリング研究室

生殖と再生医学を発生工学で結ぶ

長嶋 比呂志 教授／農学博士

体細胞クローニングやトランスジェニック動物の作出を通じて、再生・移植・生殖医療や動物資源保存に役立つ研究を行います。

動物生理学研究室

からだのリズムを知って活用する

中村 孝博 教授／博士（農学）

体内時計の仕組みを解明し、生体機能の日内変動に即した最適な投薬・給餌時刻を見つけ、医療・農業への貢献を目指しています。

微生物工学研究室

多様な微生物の新しい機能を探る

浜本 牧子 教授／農学博士

海洋酵母（新たな遺伝資源）の健康や環境への活用と分裂酵母（有用モデル生物）の新規機能遺伝子の機能解明を目指しています。

バイオインフォマティクス研究室

大規模オミックス情報の最大活用

矢野 健太郎 教授／博士（農学）

ゲノムや遺伝子発現、代謝、表現型などのオミックス情報をコンピュータ解析し、有用な遺伝子や化合物の探索を行っています。

分子発生学研究室

動物細胞の運命を分子レベルで探る

吉田 健一 教授／博士（医学）

核酸やタンパク質といった有機分子が、動物の発生をいかに制御しているのか、細胞の分化・増殖機構に注目して研究しています。

環境応答生物学研究室

植物の高次生命現象を分子・オルガネラレベルで解き明かす

吉本 光希 教授／博士（食品栄養学）

植物の環境適応における細胞内自己分解系（主にオートファジー）の重要性を、多角的なアプローチによって明らかにしようとしています。

生体機能物質学研究室

疾病の原因となる生体内化学反応

渡辺 寛人 教授／博士（農学）

生体内に蓄積するアミノカルボニル反応生成物の生理作用を研究し、糖尿病合併症発症機構の一端を解明することを目指しています。

動物再生システム学研究室

個体の形を決める細胞間のコミュニケーション

乾 雅史 准教授／博士（理学）

脊椎動物の形態形成について筋骨格系をモデルとして、細胞・組織間コミュニケーションの観点から研究しています。

生体制御学研究室

生命誕生の原理を探る

河野 菜摘子 准教授／博士（理学）

遺伝子改変マウスを用いて、体内でおこる受精の仕組みを調べています。鍵となる分子を見つけ出し、医療への貢献を目指しています。

植物発生制御学研究室

植物細胞が働くしくみを理解する

田中 博和 准教授／博士（理学）

植物の形態形成と細胞機能を支えるしくみについて、タンパク質の配置の制御に注目して研究しています。

植物適応制御学研究室

植物の巧みな環境適応戦略

高橋 直紀 准教授／博士（工学）

植物が環境ストレスにどのように対処することで、変動する環境下での生存を可能にしているのかを明らかにしようとしています。

生体機構学研究室

食を介した免疫・アレルギー・炎症反応の制御

長竹 貴広 准教授／博士（医学）

オメガ3脂肪酸やビタミンなどの食要素が免疫システムの発達や制御に働く新たな分子メカニズムを解明することを目指しています。

生体制御学

初期胚や生殖細胞の品質管理

佐藤 伴 助教／博士（医学）

生命の萌芽である初期胚や生殖細胞の品質管理がどのように行われているかについて、遺伝子改変マウスを用いて研究しています。最終的には医療への貢献を目指しています。

ゲノム機能工学

生体マトリクスの制御機構

大和屋 健二 助教／博士（医学）

生体を構成する分子の挙動は全て遺伝情報としてコードされています。それらを操作・調節することによって細胞膜や結合組織といった生体マトリクスの制御機構を明らかにし、疾患の診断・治療を含めた応用を目指しています。

※研究室は退職等により変更となる場合があります。 ※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

学科紹介

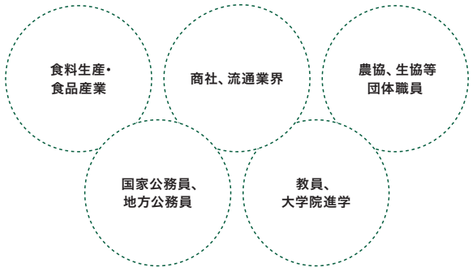
▶食料環境政策学科

Department of Agri-food and Environmental Policy

人類の生存課題を人の行動の観点から考える

21世紀に私たちが生きていくうえで、最も基礎的で重要な「食料」と「環境」をめぐる諸問題について、経済学、社会学、政策学、経営学、会計学、開発学などの社会科学の側面から総合的に考究しています。私たちの生存基盤を担っている生物・生命・自然資源の仕組みを解明し、利用することは人類の持続可能性に欠かせませんが、そこに人間がどうかかわっていくべきか、を考えることは重要です。つまり「人類の生存課題を人間の行動の観点から考え、解決方法を探る」のが本学科の学びのテーマといってもいいでしょう。こうした視点をもった人材を育成するために本学科では、さまざまな座学だけでなく、農場実習、ファームステイ実習、フィールドワーク実習、海外農業体験など、現場を体験しながら学べる科目を数多く用意し、応用力・実践力を養うことを重視しています。

目指す将来イメージ



教員からのメッセージ

食料・環境問題を多面的に考えるための接点

フードシステム論研究室
大江 徹男 教授

食料環境政策学科は3つの接点を重視しています。1つめは自然科学と社会科学の接点です。「食と農」「環境と資源」というテーマを、農学の社会科学分野という特色をいかして、研究・教育をします。2つめは現場と大学の接点です。農場実習（1年次）、ファームステイ実習（2年次）、フィールドワーク実習（3年次）では社会を取り巻く実情を知ることができます。3つめは学生と教員の接点です。教員の研究室の隣には学生が自由に使えるゼミ室があり、両者の関係は濃密です。このようなさまざまな接点を通して、課題を自発的に熟考し、行動する。自分自身が大きく成長できる学科です。

［ 学科主要科目 ］

土台をつくる ▶専門科目基礎科目群

	1年次	2年次
必修	食料環境政策学を学ぶ（2）　食料環境政策入門（2） 経済学入門（2）	政治経済学（2）
選択	基礎ゼミ（2）　ミクロ経済学（2）	ファームステイ実習（2） 海外農業体験（2） マクロ経済学（2）　プロジェクトゼミ（2）
選択	政策科学入門（2）　会計学入門（2）　統計学入門（2）　社会学入門（2）　経営学入門（2）　留学認定科目 農学入門（2）　環境学入門（2）　社会経済史入門（2）　社会調査法入門（2）　英語農学入門（2）	

関心を掘り下げる ▶専攻科目Ⅰ

	「食」と「農」の分野	「環境」と「資源」の分野
	2・3年次	2・3年次
選択	食料貿易論（2） フードシステム論（2） 食ビジネス論（2） 食料農業社会学（2） 農業政策論（2） 農業マネジメント論（2） 国際農業経済論（2） 国際開発論（2）	環境経済論（2） 資源経済論（2） 環境資源会計論（2） 環境社会学（2） 地域ガバナンス論（2） 共生社会論（2）
	留学認定科目	

視野を広げる ▶専攻科目Ⅱ

	2～4年次
選択	現代社会と食（2）、食生活の科学（2）、 食品ブランド化戦略論（2）、食品マーケティング論（2）、 6次産業化論（2）、食文化と農業ビジネス（2）、 食農メディア論A（2）、食農メディア論B（2）、 農業経営の発展と地域農業（2）、農業史（2）、 アジア農業論（2）、比較農業論（2）、 国際食料需給論（2）、食と農の貿易ルール（2）、 国際協力論（2）、途上国と一次産品論（2）、 先進国の食と農（2）、途上国の食と農（2）、 農業・環境法（2）、農業・資源問題の経済学（2）、 環境行動経済学（2）、持続可能性の経済学（2）、 持続可能性の会計学（2）、環境問題と地域社会（2）、 内発的発展論（2）、協同組合論（2）、森林・水産政策論（2）、 インターンシップ（1）
	3・4年次
選択	食料環境政策総合講座（2）
	留学認定科目

教職関係科目の ▶専攻科目Ⅲ

	1～4年次
選択	職業指導（2）、法律学概論（2）、民法Ⅰ（2）、 民法Ⅱ（2）、政治学Ⅰ（2）、政治学Ⅱ（2）、 日本史概論（2）、東洋史概論（2）、西洋史概論（2）、 地理学概論（2）、地誌学概論（2）、哲学概論（2）、 倫理学概論（2）、留学認定科目

問題発見・問題解決＝コミュニケーション能力を高める ▶卒論関係科目群

3・4年次

フィールドワーク実習（2）、リサーチゼミ・卒論ゼミ（8）※3・4年次継続履修

※カリキュラムは変更となる場合があります。※（　）内は単位数。

詳しくはホームページへ。 https://www.meiji.ac.jp/agri/department/agri_policy/cr_seisaku.html

[食料環境政策学科の4年間の学び]

1年次

農学部食料環境政策学科での学び

食料環境政策学科1年
田中 勇輝
東京都私立郁文館高等学校卒業

1年次は主に専攻基礎科目を学べます。「食料環境政策学を学ぶ」では社会科学的な視点で農業の現状を学べ、実地的知識や農業技術を学べる「農学入門」と共に取ることを強くお勧めします。「フィールド先端農学」は、科学的な内容を文系学生でも分かりやすく学べます。基礎ゼミでは日本の農業の問題点について学生間で意見を交えられ、農業の見識と学生間の仲を深められます。

〈 時間割の例(1年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	食料環境政策学を学ぶ	農学入門 科学英語	ドイツ語IIa ドイツ語IIb	農場実習	–	–
2	ドイツ語Ia ドイツ語Ib	スポーツ実習I	経済学入門		基礎ゼミ	–
3	ICTベーシックI ICTベーシックII	英語Ia 英語Ib	英語III 英語III	–	フィールド先端農学 日本国憲法	–
4	環境学入門	社会学入門	会計学入門	–	食料環境政策学入門	–
5	–	–	–	–	–	–

授業紹介 **社会調査法入門**

複雑な社会を観察する

様々な情報や複雑に絡み合う社会を、どのように観察し、どのように分析し、あるいはどのように理解していけばいいのだろうか。もっとシンプルに表現すれば、「事実に基づいて自らの考えを形作ることは」どうしたら可能であろうか。この授業では、調査方法だけでなく、なぜ調査をするのか、という視点まで立ち返り、調査能力及び思考能力の獲得を狙う。この講義で得た知見は、みなさんが社会人になったあと、「正しく未来を予測する」(データをもとに原因の推論を行う)、あるいは、「思いやりをもった人間になる(他者の合理性を理解する)」といった形で役に立つ可能性がある。
(片野 洋平准教授)

2年次

新たな学びを発見し、追求する

食料環境政策学科2年
石井 愛乃
東京都私立多摩大学附属聖ヶ丘高等学校卒業

「プロジェクトゼミ」では、個人発表やゼミ生全員でのディスカッションを通じて、食料環境政策の分野について多様な考え方に触れることができます。

また、「ファームステイ実習」では実際の農家のもとで農業体験ができ、農業の仕組みや農家の方の生活を知る機会になります。

2年次はライフスタイルに合わせて自由に履修が組めるので、興味がある授業を受けて学びを深めることができます。

〈 時間割の例(2年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	科学英語	共生社会論 環境行動経済学	–	英語IIa 英語IIb	国際農業経済論 心理学B	–
2	食文化と農業ビジネス 政策科学入門	食料農業社会学 食生活の科学	–	科学英語 プロジェクトゼミ	農業マネジメント	–
3	食ビジネス論	現代倫理学の諸問題	–	英語III	政治経済学 環境問題と地域社会	–
4	食料貿易論	環境社会学 国際比較農政論	–	–	食品ブランド化戦略	–
5	–	–	–	–	–	–

授業紹介 **国際農業経済論**

世界農業の多様性を知る

この授業では、世界農業の多様性について学びます。世界には、農耕のみを行う耕種農業地域(東アジアや東南アジアの稲作、中国やインドの畑作)もあれば、天然牧草のみに頼る牧畜を行う地域(北アフリカ、中央アジア、ツンドラの遊牧)も存在します。そして農耕と牧畜を組み合わせた農業を行う地域(欧米)も確認されます。また酪農やフィードロット、園芸農業、プランテーション農業に特化している地域もあります。つまり、農業は自然条件と社会条件に影響され、地域により異なります。世界農業の多様性を知ることは、国際的な視点につながり、日本の農業経済について考えるうえで助けとなる知識です。
(暁 剛専任講師)

3年次

「考える力」を身につける

食料環境政策学科3年
植田 隆誠
愛媛県私立愛光学園高等学校卒業

3年次からは専攻科目に加え、より専門的なゼミ活動が始まります。毎週行われる文献輪読や発表は、理解したことを言葉でわかりやすく伝えたり、少人数で議論を深めたりする練習となります。フィールドワーク実習では、事前に用意した質問を地域の方々にぶつけることで、新たな発見や疑問が生じます。ゼミのあらゆる場面で、自ら「問い」と「答え」を探す能力が養われると思います。

〈 時間割の例(3年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	ICTメディア編集I	フランス語IIa 持続可能性の会計学	農業・環境法 ことばと文化B	国際農業経済論	–
2	日本語表現A	食糧農業社会学 現代社会と食	フランス語III フランス語III	–	農業マネジメント論 心理学B	都市公園論
3	ゼミナール	環境経済論 持続可能性の経済学	–	–	環境問題と地域社会	–
4		環境社会学	–	「食料環境政策」総合講座 協同組合論	農業・資源問題の経済学	–
5	–	–	–	–	–	–

研究室REPORT **資源経済論研究室**

農業・資源問題に様々な手法でアプローチ

本研究室では、現場の実態把握、経済学的思考(ミクロ経済学)や分析ツール(統計学や計量経済学)をバランスよく修得することを心がけた学習と研究に取り組んでいます。データサイエンスの知識も身につけつつ、多様な農業資源・環境問題の背景やメカニズムの解明・理解、さらに課題解決に向けた処方箋の提示を目指しています。

担当教員より
藤栄 剛
教授

本研究室では、多様な農業資源・環境問題を対象に、経済学をベースとした教育・研究に取り組んでいます。滋賀県や兵庫県豊岡市などで、環境や生きものに配慮した農業などに関するフィールドワークを行っています。また、データ分析や論文執筆の基礎も学びます。

4年次

4年間の学修の集大成

食料環境政策学科4年
平井 菜奈子
神奈川県立生田高等学校卒業

4年次では、卒業論文執筆にウエイトを置いて研究を進めていきます。3年間余の学修内容を基に、自身が興味のあるテーマを選定し調査します。これまでと違う点は、能動的に学んでいく姿勢が更に重要になってくるということです。3年次までは講義やゼミのフィールド調査などのインプットが中心でしたが、4年次からはこれまでに培った知見を卒論としてアウトプットしていきます。

〈 時間割の例(4年次) 〉 上段:春学期、下段:秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	–	–	ゼミナール	ことばと文化b	食品マーケティング論	–
2	–	食用作物学		–	緑地管理学	–
3	–	日本文学 現代倫理学の諸問題	文芸思潮	–	外国文学	–
4	–	–	途上国と一次産品論	–	–	–
5	–	–	–	–	–	–

研究室REPORT **環境社会学研究室**

資源循環型社会を目指して

当研究室では、温暖化が進む地球環境、限られた資源という制約条件のもとで、私たちがどのように生きていくか、資源を有効に使っていくための社会や経済の仕組みを研究しています。具体的には、農村の景観、生物多様性、保養など、いわゆる農業・農村の多面的機能の意義に加え、グリーン・ツーリズム、有機農業、「農的暮らし」の実践を、それぞれ現地調査に基づき理解し、考察します。

担当教員より
市田 知子
教授

ゼミの醍醐味は何といってもフィールドワーク実習です。講義や教室でのゼミで学ぶ耕作放棄地、六次産業化、福島での帰還後の営農再開などの現場を訪ね、自分の目で見て肌で感じることによって、知識を自分のものにすることができます。

卒業生からのメッセージ

五感で体験し学びを深める空間

2020年
食料環境政策学科卒業
加藤 桃佳
敷島製パン株式会社
東日本支社営業三部
千葉営業所　営業課勤務

在学時には農場実習・ファームステイなど学科でのカリキュラムに加え、中国での海外農業体験やインドでのフィールド調査に参加し、貴重な経験から多くのことを学びました。

3年次にゼミで学んだ行動経済学は現在の営業につながる部分が多く、「国産小麦など高価格帯製品の付加価値をいかにお客様に訴求するか」といった取引先への提案で経験と知識がいかされています。4年間を通して得た学びは未来につながる一生の財産です。

TOPICS 卒業論文作成

4年間の学びの集大成に挑む

4年間の学びの集大成となるのが卒業論文の作成です。当学科では3・4年を通して「リサーチゼミ・卒論ゼミ」に在籍し、教員の指導を受けながら各自が興味をもったテーマを究めていきます。卒論のテーマはさまざまですが、食料、環境、農業、地域、開発、経済といったキーワードに関するものが多くを占めます。論文作成の過程で悪戦苦闘している姿を見かけますが、自ら得た知識や考え方を文章にまとめる作業は、「何かを伝える、表現するため」のトレーニングにもなります。現地に出向いて行ったヒアリングを基にしたり、色々な場所で集めたアンケートを基に物事を論じたりするなど、「足で稼いだ」卒業論文が多いのも、食料環境政策学科の特色といえます。（橋口 卓也 教授）

DATAでわかる食料環境政策学科

■ 在籍状況（2023年4月1日現在）

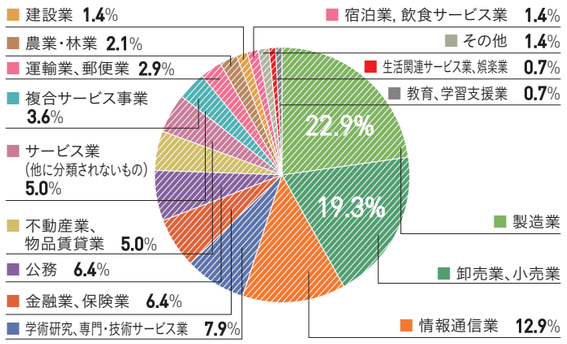
	男子	女子	合計
1年	84(56%)名	66(44%)名	150名
2年	97(56%)名	75(44%)名	172名
3年	80(56%)名	62(44%)名	142名
4年	91(60%)名	61(40%)名	152名
合計	352(57%)名	264(43%)名	616名

■ 研究室状況（2023年4月1日現在）

研究室数	平均所属学生数	研究室所属率
14	17人	89.1%

■ 2022年度進路状況

■ 2022年度就職実績



■ 主な就職先（大学院生を含む）

・三菱食品（株）	・パーソルキャリア（株）	・（株）千葉銀行
・イオンモール（株）	・（株）はくばく	・丸美屋食品工業（株）
・ＮＥＣソリューションイノベータ（株）	・（株）阪急阪神エクスプレス	・みずほリース（株）
・オイシックス・ラ・大地（株）	・伊藤ハム（株）	・（株）ヤクルト本社
・（株）日本政策金融公庫	・国分グループ本社（株）	・（株）ゆうちょ銀行
・日本食研グループ	・（一社）全国農業協同組合中央会	・ユニ・チャーム（株）
・日本たばこ産業（株）	・全国農業（協組連）本所	

[食料環境政策学科の教育・研究スタッフ]

食料環境政策学科のホームページはこちら！

https://agri-policy.jp/

国際開発論研究室

開発途上国の飢餓と貧困について考える

池上 彰英 教授／博士（農学）

世界には貧しい国と豊かな国があり、飢餓と飽食が併存しています。途上国に関する多様な知識と視点を身につけることが、本研究室の目標です。

環境社会学研究室

農業と環境、環境問題の構図を「社会学的に」読み解く

市田 知子 教授／博士（農学）

当研究室では、環境に配慮した農業政策を学び、環境問題にかかわる地域住民や自治体などの関係を「社会学的に」読み解いていきます。

フードシステム論研究室

グローバル下における「農」と「食」について考える

大江 徹男 教授／博士（経済学）

当研究室では、グローバル下における農産物・食品の価格形成や流通の実態について考察し、地域間格差や私たちの生活について考えます。

地域ガバナンス論研究室

地域の新しい挑戦をより持続的なものとするために

小田切 徳美 教授／博士（農学）

いま、農村でも都市でも地域再生の新たな挑戦が始まっています。この動きをさらに持続的なものとするために何をすべきかを考えます。

食料貿易論研究室

グローバルに活躍できる人材を育てる

作山 巧 教授／博士（国際経済学）

農水省でのTPP交渉、ロンドンでの大学院留学、パリでの外交官、ローマでの国連職員といった国際経験をいかして、世界で通用する人材を育てます。

農業マネジメント論研究室

ひとりひとりが農業、農村の応援隊員になろう！

竹本 田持 教授／博士（農学）

農家のみなさんとの直接交流を大切にしながら、農業経営の多角化や農業・農村関連ビジネスをキーワードに農村地域活性化を考察しています。

農業政策論研究室

日本農業の現実と農業政策の立場を考える

橋口 卓也 教授／博士（農学）

主に戦後の日本の農業政策の動向を学びつつ、時々の政策が農業の現実に対して、いかなる立場をとってきたのか、その背景は何かを考察します。

環境経済論研究室

食料・農業から環境問題を考える

廣政 幸生 教授／農学博士

環境問題は身近なことから地球規模まで幅広い。ヒトの経済行動を視点として、問題を解明し解決策を考察できる理解力と洞察力を養います。

資源経済論研究室

経済学を通して農村を取りまく多様な社会問題を考える

藤栄 剛 教授／博士（農学）

環境問題など多様な社会問題の解決のためには何が必要とされているのでしょうか。農村を取りまく農業・資源・環境問題を経済学の視点から考えます。

共生社会論研究室

世界の「ムラ」の知恵から競争と共生を考える

岡 通太郎 准教授／博士（地域研究）

経済と自然の両立はなぜ難しいのか。豊かさとは一体何か。世界のさまざまな生活の中から我々が進むべき未来について考えます。

食料農業社会学研究室

食・農・環境領域の社会現象を観察し、分析し、考察し、提案する

片野 洋平 准教授／博士（法学）

食・農・環境領域には解決すべき課題が数多く残されています。学問的におもしろく、かつ、実社会にも役立つような研究を一緒にしてみませんか。

食ビジネス論研究室

食ビジネスを経済学的に考える

中嶋 晋作 准教授／博士（農学）

ローカルには農産物直売所、グローバルには多国籍アグリビジネスまで、農や食にかかわるビジネスについて、経済学的に考えます。

環境資源会計論研究室

共有価値を創造して社会的課題を解決してみませんか

本所 靖博 准教授／修士（商学）

環境と経済の関係を社会にわかりやすく伝えるのが会計。その手法を使ってフィールドに飛び出し、社会的課題を解決してみませんか。

国際農業経済論研究室

持続可能な農牧業について考える

暁 剛 専任講師／博士（農学）

日本、中国、モンゴル国の農耕と牧畜の関係について比較検討を行い、環境と経済が両立しうる持続可能な農牧業の姿を模索します。

農業構造論

経済と農業との関係を国家の働きから考える

古田 恒平 助教／博士（農学）

食料、農業、農村に関していかなる問題が生じ、それに対し国家がいかに対応したのかを分析することで、経済と農業との関係を考察します。

食農メディア論

報道が伝える農業と現場のギャップを知る

榊田 みどり 客員教授／農業ジャーナリスト

報道と現場には常に多少のズレが生まれます。自分の実感と判断力で、報道をどうとらえ直すか。その姿勢を養える講座になればと思っています。

※研究室は退職等により変更となる場合があります。※研究室入室にあたっては選抜試験が実施される場合があります。

総合科目 General Education

すべての学問領域の基本となる知識を学ぶ

総合科目は専門の枠を越え、農学部の全学生を対象にした科目です。これらは各学科の専門科目と対をなし、すべての学問領域の基礎となる重要な科目でもあります。内容は人文科学、社会科学、自然科学など幅広い教養を養う「教養科目群（第一分野～第四分野）」、全学科共通の「共通専門科目群」、生きた語学力を育成する「外国語科目群」、スポーツ実習や健康と運動の科学理論を学ぶ「保健・体育科目群」の４領域に分けられています。

総合科目の中には、指定された学年次に履修しなければならない科目もありますが、多くは１年次から４年次までのいずれの学年次でも履修が可能です。農学に関する専門科目と、その土台となる幅広い領域の総合科目とが有機的に融合するところに、本学部の特長があります。

[総合科目 科目一覧]

	第一分野			第二分野	第三分野	第四分野
教養科目群	人文科学系			社会科学系	自然科学系	ICT系
	宗教哲学	ことばと文化A	西洋の歴史	経済学	生物学基礎	ICTエレメンタリー
	科学の哲学	ことばと文化B	アジアの歴史	社会学	物理学基礎	ICT ベーシックⅠ・Ⅱ
	現代論理学の諸問題	日本語表現A	Global Competence A	民俗学	化学基礎	ICT 統計解析Ⅰ・Ⅱ
	論理的思考の技法	日本語表現B	Global Competence B	法学	数学基礎	ICT データベースⅠ・Ⅱ
	心理学A	文芸思潮	Global Competence C	日本国憲法		ICTメディア編集Ⅰ・Ⅱ
	心理学B	地域文化研究				ICT アプリ開発Ⅰ・Ⅱ
	日本文学	日本の歴史A				ICTコンテンツデザインⅠ・Ⅱ
	外国文学	日本の歴史B				ICT総合実践Ⅰ・Ⅱ
共通専門科目群	生物生産学初歩概説	生命倫理学	農場実習			
	農芸化学初歩概説	英語農学Ⅰ	アグリサイエンス論			
	生命化学初歩概説	英語農学Ⅱ	フィールド先端農学			
	農業経済初歩概説		国際農業文化理解			
外国語科目群	第一外国語			第二外国語		その他の外国語
	英語Ⅰa･b	日本語Ⅰa･b		ドイツ語Ⅰa･b	スペイン語Ⅰa･b	資格英語
	英語Ⅱa･b	日本語Ⅱa･b		ドイツ語Ⅱa･b	スペイン語Ⅱa･b	資格ドイツ語
	英語Ⅲ	日本語Ⅲ		ドイツ語Ⅲ	スペイン語Ⅲ	資格フランス語
	科学英語			フランス語Ⅰa･b	中国語Ⅰa･b	中国語
	英語コミュニケーション			フランス語Ⅱa･b	中国語Ⅱa･b	ロシア語
				フランス語Ⅲ	中国語Ⅲ	スペイン語
						朝鮮語
						ギリシア語
						ラテン語
						イタリア語
						アラビア語
保健・体育科目群	講義科目				実習科目	
	運動学	健康科学			スポーツ実習Ⅰ	スポーツ実習Ⅱ　スポーツ実習Ⅲ
総合科目ゼミナール（サブ・ゼミナール）	ゼミナール	ゼミナール論文				

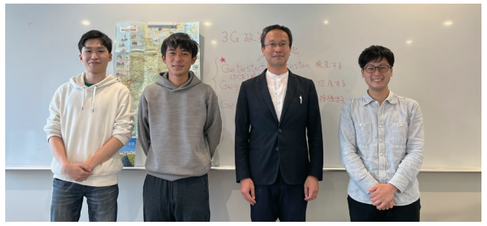
詳しくはホームページへ。 https://www.meiji.ac.jp/agri/department/general_subject/cr_sogo.html

授業紹介 外国文化ゼミナール（ドイツ語）

担当教員 ドイツ語研究室 **辻 朋季** 准教授

議論を通して多様な考え方に触れよう

明治大学農学部では、各学科のゼミナールの他に、総合科目担当教員による人文科学・外国文化・身体運動学の各ゼミナールも開講しています。全学科の３・４年次が対象で、学科のゼミと兼ねることもでき、１年間のみの履修も可能です。私が担当する外国文化ゼミナールでは、学生の興味に応じたさまざまなテーマ（教育、医療、経済、文学など）について、ドイツの事情も適宜参照しながら、学生と教員が活発に議論する場を設けています。特に新型コロナウイルス感染症の流行以降は、コロナ禍が日独の将来に及ぼす長期的な影響について考える機会も設け、これからの時代を生きるヒントを探っています。唯一の、正しい答えを導き出すのではなく、議論を通じて多角的に物事を捉える姿勢を獲得し、現代社会の複雑なありようを認識することで、卒業後の人生のさまざまな場面でいきる（かもしれない）思考力や的確な判断力を身につけてもらえたら幸いです。



授業紹介 スポーツ実習Ⅲ

担当教員 保健体育第Ⅱ研究室 **加納 明彦** 准教授

冬の大自然の中でスキーを楽しもう

「スポーツ実習Ⅲ」は毎年２月上旬に長野県菅平高原で行われるスキー実習です。農学部に在籍するすべての学生が履修できるこの実習は、初心者から上級者までが各々のレベルに応じた講習を受けられるようになっています。スキー技術の向上を目指すとともに、生涯スポーツとしてのスキーを安全に楽しめる能力を養うことも目的となっています。近年、娯楽の多様化に伴ってスキー人口は減少傾向にあります。しかし白銀の大自然の中でスキーの楽しさを知ることは、日常生活やネット上のバーチャルリアリティの世界では得られない貴重な体験となるでしょう。リフトに乗っているとき、森につながる新雪を見下ろしてみてください。野兎やキツネなどの足跡を発見して感動を覚えることも。学科、学年、男女の区別なく過ごす３泊４日の山の上での実習生活は、学生時代の良き思い出のひとつになるはずです。

TOPICS 農学部語学教育の特色

英語第Ⅲ研究室
下永 裕基 准教授

大学ならではの外国語学習を！

農学部では学生たちが英語で書かれた論文を読んだり、英語で研究成果を発表したり、積極的に海外留学にチャレンジしたりしています。

外国語を使いこなすうえで必要なのは「言語」・「知識」・「文化」です。文法や語彙など「言語」だけで言葉が使えるわけではありません。具体的にその言語を使って自分が何をしたいか、具体的なイメージをもち、それに必要な「知識」を身につけることが必要です。さらに「文化」も重要です。外国語を学んでいると、日本語とまったく異なる表現や発想に出会いますが、それらを生み出すのは背景にある文化です。

農学部の外国語教育は、言語をただ学ぶのではなく、さまざまなトピックについての知識を合わせて学んで表現力を豊かにし、言語の背景にある文化まで視野に入れてバランスよく学ぶことを重視しています。

また農学部では、第二外国語も学びます（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語より選択）。学ぶ言語の種類を増やすことは、世界を複眼的に見つめ、世界の多様なものの考え方にふれることでもあります。大学生らしい語学学習を通して教養を深め、視野を広げていきましょう。

[総合科目の教育・研究スタッフ]

アグリサイエンス研究室

圃場から日本と世界の農業の未来を考える

岩﨑 泰永 教授／博士（農学）

実際に作物を栽培する実験・研究を通して、作物の姿を科学の視点で捉え、日本および世界の農業の課題を理解し、生産性の向上、環境負荷軽減、おいしく健康によい作物や野菜の生産などにつながる方法を考えます。

日本語研究室

読書文化と日本の近代

松下 浩幸 教授

夏目漱石や樋口一葉などの日本文学や、社会における読書の意味など、活字メディアが生み出した近代の文化現象について研究しています。

英語第Ⅱ研究室

言語や文学の研究から人間の営みを探る

狩野 晃一 准教授／博士（英米文学）

現代の日本から遠く離れているように思える中世ヨーロッパ。いかに異なり、どのような共通点をもつのか。言語変化や文学伝統の研究を通じて人間とは何かを探ります。

ドイツ語研究室

日独文化交流史の再検討

辻 朋季 准教授／博士（文学）

ポストコロニアリズムの理論や研究成果を取り入れて、この観点から文化交流史（特に日独交流史）の再検討を目指しています。

フィールド先端農学研究室

最先端の植物工場技術を習得しよう

伊藤 善一 専任講師／博士（農学）

植物の栽培・管理技術を中心に置いた施設園芸および、植物工場における園芸作物の高品質・高収量生産技術について研究しています。

英語第Ⅳ研究室

英語史研究ならびに人間精神と言語の関連をさぐる

織田 哲司 教授／博士（文学）

人間の脳という有限と無限の交点から生まれる言語に目を向けて、人間とはどういう生き物なのかについての洞察を深めてください。

哲学研究室

西洋近世の形而上学・倫理学

長田 蔵人 准教授／博士（文学）

近代科学の誕生と発展は、人々の世界観・価値観にどのような変化をもたらしたのでしょうか。私たちの科学的世界像の基礎を研究しています。

英語第Ⅲ研究室

言葉を通して人間を学ぶ

下永 裕基 准教授

中世初期の「古英語」の研究室です。古い文献は宝箱。読めば昔の人の歩みを追体験でき、さらに語源や文法の謎も解けていきます。

英語第Ⅰ研究室

風景を通して見る自然と言語

樋渡 さゆり 准教授

自然観や言語観、美意識が大きく転換した産業革命から進化論の時代にスポットをあて、現代の私たちの文化や生活を考えます。

保健体育第Ⅰ研究室

パフォーマンスを考える

多賀 恒雄 教授

高い競技力を有する人もいればそうでない人もいます。何故でしょう？ その要因を運動能力的観点から検討しています。

保健体育第Ⅱ研究室

スポーツ・バイオメカニクス

加納 明彦 准教授

スポーツ選手の動作について高速度カメラによる三次元解析や地面反力の分析を行い、熟練動作のメカニズムを検討しています。

フランス語研究室

時には違う眼鏡で世界を見てみよう！

高瀬 智子 准教授

言語を学ぶこと、それは、その言語の色をした眼鏡をかけてみることに似ています。さあ、フランス語色の眼鏡からはどんな世界が見えて来るでしょう？

英語農学研究室

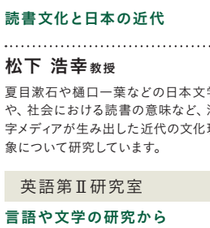
農業環境科学や政策を英語で学ぶ

McTaggart, Iain 准教授／Ph.D.

地球温暖化や気候変動について英語で情報を集め、食料生産・健康・環境等に与える影響や適応政策について研究し、英語で発表します。

※研究室は退職等により変更となる場合があります。

教員からのメッセージ



さまざまな事柄に積極的にふれてみよう

保健体育第Ⅰ研究室
多賀 恒雄 教授

大学教育の目的は、一言でいえば教養あふれる専門的知識人の育成ということになります。農学部でも、教養教育を重視し、専門教育とは別に教養科目群として4つの分野を設置し、幅広く履修できるよう配慮しています。しかし、ただ与えられたものを消化するという勉学のあり方では大きな学習効果は期待できません。受け身にならず、物事の背景にある歴史や文化、精神等に思いをはせながら積極的に学ぶ習慣を身につけてほしいと思います。そうすれば、理解も深まり、同じ事象でもまた違ったものが見えてくるかもしれません。また、配置された科目を学ぶだけではなく、さらに多くの事柄にすすんで取り組むと同時に、さまざまな体験をすることも教養を涵養するうえで大切です。こうした活動を通して得られた力は、専門的分野での活躍はもちろんのこと、豊かな人生を送る上でなくてはならない大切なものとなってくるでしょう。このことを深く認識して、共通科目を積極的に受講するとともに、さまざまな事柄にチャレンジし、「教養」という能力を開発してくれることを期待しています。

生田キャンパス 主な研究施設・設備

1 中央校舎
2 第一校舎1号館
3 第一校舎2号館
4 第一校舎3号館
5 第一校舎4号館
6 第一校舎5号館
7 第一校舎6号館
8 ハイテクリサーチセンター
9 温室
10 南圃場
11 図書館
12 植村直己記念碑
13 食堂館スクエア21
14 植物工場基盤技術研究センター
15 37号棟
16 東グラウンド
17 25号棟

1 中央校舎

生田キャンパスの中心に立つ中央校舎には、農学部事務室等の各事務室、診療所、学生相談室、教室、情報処理教室、メディアホールなどがあります。

2 3 4 5 6 7 1～6号館

1～6号館には、教室、ゼミ室、学生実験室や各教員の研究室があります。授業や研究は、基本的にこれらの建物と中央校舎を使用して行われます。

G H I J K L M N

詳細は ▶P.41-42 へ

8 ハイテクリサーチセンター

理工学部と農学部が合同で利用する施設。内部には、数千万円クラスの研究装置から、中には1億円を越える最先端機器も設置されています。

A B C D E F

詳細は ▶P.41 へ

9 温室

主に品種改良等を試験的に行うために使用されており、花卉類やトマト、果樹を栽培する研究室や、地球温暖化に対応した亜熱帯地域の作物を栽培する研究室などが主に利用しています。

G

詳細は ▶P.42 へ

10 南圃場

土壌分析の研究や作物栽培の研究などを行っている複数の研究室が、実際に生産や収穫、調査を行うための実験圃場です。

P

詳細は ▶P.42 へ

11 図書館

自然科学系資料を中心に約40万冊を所蔵しています。毎日の学習・研究の場として欠かすことのできない図書館で、豊かなキャンパスライフを送ることができます。

12 植村直己記念碑

1964年に農学部を卒業し、1984年2月12日、世界初のマッキンレー冬期単独登頂に成功し、帰らぬ人となった世界的冒険家"植村直己"の記念碑。農学部創立記念庭園の中央にそびえ立ち、学生たちの憩いの場となっています。

13 食堂館スクエア21

3階建ての学食で、コンセプトの異なる2つの食堂が入っています。夜まで開いているので、構内に滞在する時間の長い理系学生にとっては力強い味方。昼ご飯だけでなく夜ご飯も食べることができます。

充実した研究施設＆設備

バイオサイエンスをはじめとする科学・技術の発展は、近年目覚ましいものがあります。これらの技術を利用して、生物の仕組みを解明するためのさまざまな機器類が開発されてきました。それに伴って機器類が身近にあるか否かで研究手法が限られてしまうこともあります。農学部では、最先端の研究に要求される高度な研究機器類を整備し、研究体制の充実を図っています。これらの研究機器類を利用して、生物の生きていく仕組みについての研究を進めると、そこには無限の不思議と、無限の可能性があることに気づくでしょう。そこから得られた情報を私たちの生活にどこまで還元することができるのか、研究の進展が期待されます。

TOPICS 農商工連携研究のモデルケース

人工光を使って野菜を栽培する施設が2011年に完成！

「明治大学植物工場基盤技術研究センター」での研究には2つの特長があります。1つめは「完全人工光型」すなわちランプを使った植物栽培の研究を行うことです。空きオフィスなどを活用して野菜を供給する都市型農業の形態のひとつとして、植物工場は大きな可能性を秘めています。2つめは、本学が総合大学であることをいかし、学部の枠を越えて商、経営、理工、農学部などが協力体制を組み、農商工連携研究のモデルケースとして運用していくというもの。植物工場ほど、それらが一体とならなければ成り立たない産業はありません。

ハイテクリサーチセンター

A 液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）

複合試料が高速で分離できる装置に最先端の質量分析計を結合させた機器。ペプチドなど低分子化合物の質量を素早く高感度で分析できます。

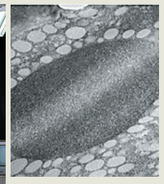
B 飛行時間型質量分析計（MALDI-TOF/MS）

田中耕一さんのノーベル賞受賞（2002年）で、その名前が一般的にも知られるようになった質量分析計。タンパク質や核酸などの高分子化合物の質量を超微量で分析できます。

C 走査型電子顕微鏡（SEM）

物質の表面構造を観察するときに用いられる電子顕微鏡。微生物の丸ごとの形態や動植物の組織構造などの観察に利用されています。

D 透過型電子顕微鏡（TEM）



小・中学校でよく使われる光学顕微鏡より、10万倍以上小さな物が見える顕微鏡。ナノスケールのウイルスやタンパク質1分子を観察できます。

E ガスクロマトグラフ／質量分析装置（GC／MS）

ガスクロマトグラフ（GC）と質量分析装置（MS）を結合した複合装置です。GCで分離した単一成分についてMSスペクトルを測定することにより成分の定性を行い、MSにより検出されたイオンの強度により定量を行います。有機化合物（特に低分子量成分）の定性・定量を目的とした分析に活用しています。

F 解析用サーバー

コンピュータ（サーバー）は大規模解析を実現します。解析用サーバーでは、ゲノム配列決定や新規遺伝子探索、生物種間での遺伝子の類似性の解明など、さまざまな大規模解析を可能とします。また、解析データを全世界に発信するWebサーバー機能も備えています。

1～6号館

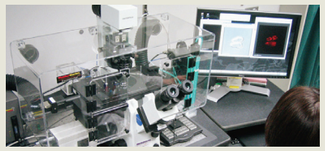
G セルソーター

非常に高速で連続的に移動する小さい液滴の中に閉じ込められた1つ1つの細胞にレーザー光を当て、生じた屈折光や蛍光から特定の細胞の分布を調べたり、分取したりする装置。ある細胞集団の中から特定の細胞を生きたまま1つずつ分離・回収することも可能です。

H 高速次世代シークエンサー

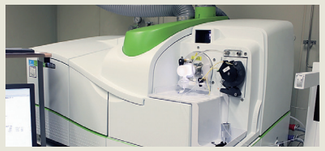
初期のゲノムプロジェクトでは何年もかかったヒトゲノムの30億塩基対を1～2日程度で決定できる能力をもったシークエンサーです。農学部特有の配列未知の動植物や微生物のゲノム解析からエピジェネティクスなどのポストゲノム解析までを行うことが可能です。

I セクショニング蛍光顕微鏡



微生物や、動物細胞の内部でおきている変化を「生きたまま」「リアルタイムで」観察することができます。細胞内の特定のタンパク質を赤や緑の蛍光で検出し、それらの画像を解析することで細胞の変化を研究しています。

J 誘導結合プラズマ質量分析計（ICP-MS）

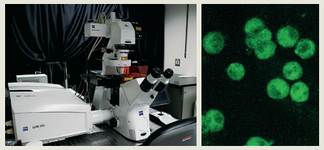


高温のプラズマと磁場の中に液化試料を導入し、わずかな質量差を捉えて土壌、動植物など、物質を構成している多元素の微量分析ができます。

K マイクロアレイデータ処理装置

刺激や環境条件による数万種類の遺伝子発現の変化を網羅的に調べる装置で、ポストゲノム解析に活用しています。

L レーザー共焦点顕微鏡



特定のタンパク質が細胞内のどこで働くか、時間経過に伴ってどのような働きをするか、あるいは他のタンパク質との相互作用などを、組織や細胞が生きた状態で高感度・高精度に観察することができる装置です。

M 水利実験場

維持管理が容易で、環境に配慮した水路や取入堰などの水利施設の開発や改良をするために模型を製作して実験を行っています。写真は、農業用水路を使った小水力発電のための水車の実験をしているところです。

N 植物培養室

光や温度を人工的に調節できる培養室です。遺伝子導入した細胞からの植物個体の再生や、低温・乾燥などの環境条件に対する植物の応答や遺伝子機能の解析に利用しています。

その他

O バイオテクノロジー実験設備棟

植物・微生物等の遺伝子組換え実験を行うためのクリーンルーム。外気からのホコリの侵入を防ぐエア・カーテン設備、および組換え植物の花粉等が外に拡散しないための設備を有しています。

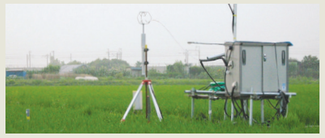
P ライシメータ

作物を実際に栽培しながら、降雨量、灌水量、および排水量を観測し、作物の蒸発散量（要水量）を経時的にとらえるための施設です。地下水を調節することも可能であり、作物生産において重要な水収支との関係を定量的に解析しています。

Q 温室

水耕栽培・礫耕栽培としての施設園芸を行っている研究実験用の温室です。主に品種改良等を試験的に栽培するためなどに使用されています。

R 温室効果ガス交換量測定装置

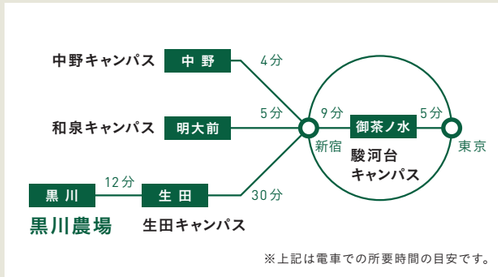


水田における温室効果ガス（CO_2、N_2O、CH_4）の発生量と吸収量を経時的に測定する装置で、3次元超音波風速計と光音響式ガスモニターから構成されています。熱収支各項と土壌環境の測定も同時に行っています。

明治大学**黒川農場**

自然と共存する、最先端農場で学ぼう

環境・自然・地域との共生をコンセプトに2012年、神奈川県川崎市麻生区に開設されたのが黒川農場です。生田キャンパスからも近く、これまで難しかった年間を通じた持続的な実習も可能となりました。当農場はもともとの自然を最大限にいかした設計がされており、先端技術を駆使した生産効率の高い栽培システムと環境保全型システムを併せもちます。また、地域と大学の連携による多目的な都市型農場を目指しているのも黒川農場の特長です。



※上記は電車での所要時間の目安です。

農学部に所属する9割以上の学生が、黒川農場での「農場実習」を半期または通年、体験しています。

黒川農場マップ

人工光・閉鎖型苗生産システム

密閉された空間で、温度管理・光照射・灌水などすべてを自動で行うシステムを備えた施設。季節や天候に左右されることなく、苗を無菌的に短期間で育て、連続的に供給可能です。

本館2階 実験・実習室

農場実習で使うほか、農場の研究室所属のゼミ学生が実験をするところです。

本館

鉄筋コンクリートと木造のハイブリッド構造で建設されたシンボル的施設であり、教室、実験室、研究室、教員室、事務室などを有した教職員と学生の教育・研究の拠点となる建物です。

温室

土耕栽培や人工培地による養液栽培など、さまざまな栽培方法により最先端の施設園芸を行うための施設。温室内の一部にはバイオマス燃料を使用したペレットボイラーが導入されています。

本館2階 学生ラウンジ

学生が実験実習の合間の休憩や、ディスカッション等に利用できるスペースです。木質構造で温かみがあり、くつろげる空間に設計されています。

里山

黒川農場の周縁は里山になっており、植物、哺乳類、鳥類などの自然と黒川の文化を、里山を通して総合的に学ぶフィールドとして使用されます。

圃場

これらの圃場は学生が実習で使用するほか、社会人向け農業講座や生産販売用に使われています。一般的な栽培のほかに有機栽培も行われており、さまざまな栽培方法で作物を生産しています。

加工実習棟

漬物、ジャムなど、学生の食品加工実習に利用されている施設。明治大学ブランドの加工食品の生産を目指しています。

農場実習の担当スタッフ

都市近郊農業における野菜栽培技術開発

川岸 康司 特任教授／博士（農学）

都市近郊農業における、野菜の生理・生態や品目・品種の特性をいかした栽培技術の確立を目指しています。

地域農産物の有効利用と食文化

徳田 安伸 特任教授

地域の多様な農産物の加工特性を調べ、有効利用や付加価値の高い食品開発を目指します。さらに、世界や地域の食文化について探求します。

土壌微生物を活用した資源循環型農業の研究

甲斐 貴光 特任准教授／博士（理学）

生物指標による土壌診断から有機栽培にとって最適な土づくりを行い、圃場計測や画像利用による植生診断との関係解析から植物の生産性向上を目指します。

未利用有機性廃棄物の利用技術開発に関する研究

武田 甲 特任准教授／修士（農学）

環境保全型農業の確立と資源循環型社会の構築に役立つことを目的として、未利用の有機性廃棄物を肥料化し栽培に活用する研究を行います。さらに有機性廃棄物の新しい利点を見出し、利用を促進することを目指す研究を行います。

都市部での野菜栽培を活用した新たな価値の創造

齋藤 義弘 客員教授

都市部で、主に野菜の種まきから収穫までの一連の管理技術を普及させることにより、新たな価値の創造に寄与できることを目指します。

農場長からのメッセージ

先進的な栽培システムと環境保全型システムを併せもつ都市型農場

元木 悟 教授

黒川農場は、環境・自然・地域との共生をコンセプトとした都市型農場であり、都心からほど近い大学付属農場として、都市近郊の農業と里山を学ぶには恵まれた環境です。おもに農場実習を行う一般野菜栽培と有機栽培の2つの露地圃場のほか、先進的な施設園芸が実践できる温室群、人工光・閉鎖型苗生産システム、加工実習棟、里山などを有し、体験と実践を基本に、分析と研究を行いながら学びを深めることができます。農場実習では、農学部4学科の学生が種まきから収穫までの一連の農作業を実践的に学ぶことができ、座学で得た知識を広げるのに役立ちます。

国際交流（留学制度）

2つの留学制度と短期海外研修

明治大学の留学制度には、明治大学と留学の協定を結んでいる高等教育機関等へ学内選抜を経て派遣される「協定留学」と、自分で留学希望高等教育機関等に出願手続きをして、明治大学の許可を受けて留学する「認定留学」の２種類があります。

両制度とも、留学先機関で取得した単位は所定の手続き・審査を経ることで、本学の卒業要件単位として認定されることがあります。

また、農学部では毎年８月にタイ、バリへの約１週間の短期海外研修を実施しています。いずれも、詳細は農学部ホームページ内の「国際農業文化理解」のページを確認してください。

[留学の条件]

	協定留学（学部間・大学間）		認定留学	
資格	学部生	①出発時2年次以上（出願時1年次以上） ②在学1学期につき卒業要件単位を15単位程度取得していること。1年生の志願者は、1年生終了時に卒業要件単位を30単位以上取得していること。	学部生	①出発時2年次以上 ②在学1学期につき卒業要件単位を15単位程度取得していること。1年生の志願者は、1年生終了時に卒業要件単位を30単位以上取得していること。
	大学院生	指導教員の許可等	大学院生	指導教員の許可等
人数	各大学につき毎年度1～2名（相手校により異なる）		制限なし	
費用	・留学先機関の授業料免除有無は、留学先機関との協定により異なる（本学の学費は納付）。 ・渡航費や滞在費などは自己負担。		・すべて自己負担。 ・本学と留学先大学の両方の学費を納付。	
助成	学内選考のうえ留学経費を助成する制度あり。		学内選考のうえ留学先大学授業料の一部ならびに留学経費を助成する制度あり。	
外国語能力	・英語圏：少なくともTOEFL-iBT®61点以上が必要。大学によっては、さらに高いスコアが必要である。 ・その他の言語は協定校の定める基準に従う。		留学先の高等教育機関等によって異なる。	

※詳細に関しては国際教育センター発行「海外留学の手引き」や、各学部・研究科のシラバスなどを参照してください。

[農学部・留学可能な協定校] 2023年4月現在

農学部の長期留学制度（学部間協定留学）

「大学間」の協定に基づく留学制度には全学部から応募できますが、農学部には農学部の学生しか応募できない独自の「学部間」協定校があります。「学部間」協定校は、農学系の学部学科を有する大学なので、語学力の向上だけでなく、日頃勉強している専門分野の学びを深めることも期待できます。以下、学部間協定校に指定されている６つの主な大学を紹介します。

カセサート大学 カンペンセン校農学部（タイ王国 カンペンセン）

カセサート大学は1943年に創立され、タイ国の中でもトップスクールのひとつにランクされています。カンペンセン校農学部は1979年にできた学部ですが、タイの農学分野で先導的な役割を担ってきました。留学生にも開かれた大学であり、キャンパス内には留学生寮が完備されているので、安全かつ安価な滞在が可能です。留学生の割合は全学生の1～2%となっています。

シーナカリンウィロート大学 農産物革新・技術学部、経済学部（タイ王国 バンコク）

シーナカリンウィロート大学は1949年に創立された国立大学です。現在は医学部や薬学部も設置されて総合大学となっています。明治大学とは非常に深いつながりがあり、積極的に相互に学生の派遣や受け入れを行っています。経済学部など文系学部の科目やタイ語の授業についてはプラサンミットキャンパスをメインとし、農産物革新・技術学部を含む自然科学系の理系学部はナコンナーヨック県にあるオンカラックキャンパスをメインとして利用することになります。

チュラロンコン大学 理学部（タイ王国 バンコク）

チュラロンコン大学は18の学部により構成され、学士、修士、博士、ポストドクトラルを含むすべての学位を提供するタイにおける代表的な研究・教育機関であり、タイの最高峰の大学として位置づけられてきました。チュラロンコン大学理学部は、生物、化学、植物、微生物、生化学、食品科学、環境科学等の学科を有しており、農学部の教育研究分野と共通するものも多い学部です。キャンパスは首都バンコク市街に位置し、電車の最寄り駅が２つあり、無料バスで学内への移動が可能など、非常に利便性の高い大学です。

ハワイ大学 マノア校 熱帯農学・人的資源学部（米国 ホノルル）

ハワイ大学は1907年に創立されたハワイ州立の大学です。大学のあるオアフ島は特殊な熱帯環境条件にあるため、ハワイ大学は熱帯農学分野の研究において世界的にも有名です。キャンパスはワイキキビーチから程近い立地ながらも閑静な住宅地にあり、落ちついた環境の中で生活を送ることができます。また、世界中から集まった留学生たちによる国際交流も活発に行われています。

ミシガン州立大学（米国 イーストランシング）

ミシガン州立大学（MSU）は、1855年に設立された米国で最初の農学大学を前身としており、現在では、18カレッジと107学科から構成される総合研究州立大学としてトップレベルの教育・研究を行っています。そのキャンパスも広大であり、キャンパス内を循環するバスも運行されています。スポーツは全米大学ビッグ10に入るほど盛んで、そのほか学生サークルが350を数えるなど、課外活動の機会も多いです。

国立屏東科技大学 農学部、工学部（台湾 屏東県）

国立屏東科技大学は台湾南部に位置し、亜熱帯-熱帯農業と環境科学関連の研究と教育が熱心に行われている国立大学です。アジア各国から留学生の受け入れを多く行っており、英語授業による学位授与を含めた国際交流にも熱心な大学です。300ヘクタールと台湾最大の面積を誇る美しいキャンパスをもつ大学で、広大な敷地内に農場、牧場、植物園、野生動物保護センターなど、さまざまな施設が点在しています。特に実践的農業教育・研究で貢献しているため、生産者や現場とのかかわりが強い大学です。

農学部の短期留学制度（国際農業文化理解プログラム）

農学部には、タイ、バリの２つの短期留学プログラムがあります。タイのプログラムは、授業科目（国際農業文化理解）として履修し、単位を修得することができます。

URL: https://www.meiji.ac.jp/agri/international/program.html（詳細はこちらからご確認ください）

INTERVIEW 留学体験記 ｜ 留学先：カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）

世界へ広がるキャンパスライフ

生命科学科4年　笠原 大靖　茨城県私立江戸川学園取手高等学校卒業

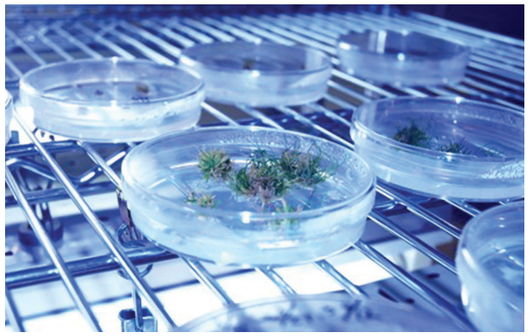
留学してよかったことは語学力を高めるきっかけになっただけでなく、考え方の視野が広がったことです。現地における大学生活をはじめ、ホストファミリーと過ごした時間や休日に友達とＬＡに行った経験の全てが刺激的な学びで溢れていました。留学期間中は「今しかできないこと」を体験しようと、積極的に現地の学生や先生方とコミュニケーションをとるようにしました。日々、多くの人と対話し自身の意見を発信する経験を積めたことは、自分自身を成長させることにもつながりました。自分の行動次第で人を変えてくれるのが留学です。明治大学は協定校の数だけでなく、留学のサポートも充実しているため「大学生になったら留学をしてみたい」と思っている方はぜひ、積極的に海外へチャレンジしてみてください。

大学院 農学研究科

研究室のドアを開ければ

農学研究科長
川上 直人 教授

農学は自然を学び、自然から学び取り、さらに人と自然を結ぶ学問・研究分野です。大学院では特定のテーマを専門的な知識と手法で深掘りし、課題の解決を目指しますが、視野を広げて考える、視点を変えて見ると、テーマの意味や意義がかえって明確になり、広がりと深化がもたらされます。明治大学大学院農学研究科は、自然科学から社会科学に至る幅広い専攻と優れた教員スタッフを擁し、研究室のドアを開けると分野の異なる学生や教員といつでも出会うことができます。さらに、みなさんの活動を後押しする支援システムやプログラムを用意しています。この持ち味を存分に引き出し、好奇心を大切にして自由な発想を育て、自分だからこそできる新たなチャレンジを期待しています。



▶農芸化学専攻

最先端技術を駆使して、さまざまな問題に挑む

本専攻では、「食料・環境・生命」の分野における諸課題に、物理学・化学・生物学・分子生物学・工学の立場から取り組んでいます。先端技術を駆使して、私たちが安全で快適な生活を送るために必要な食糧・栄養や地球環境の問題の克服を目指します。

研究分野としては、動植物・微生物の栄養と代謝、有用生物の選抜と育成、生理活性物質の探索と生合成、生物を利用した土壌改良・環境浄化など、生物生産や資源生物に関する分野が中心となりますが、ほかに生産物を対象とする研究分野としては、新規食品素材や食品機能の開発などがあります。以上の教育・研究を通して、バイオサイエンス研究に必要な化学的・分子生物学的な知識を有し、幅広く農芸化学分野で社会貢献できる人材を養成します。

［教育・研究スタッフ］

教授	荒谷 博 石丸 喜朗 長田 恭一 久城 哲夫 竹中 麻子 中島 春紫 中村 卓 前田 理久 村上 周一郎
准教授	安保 充 小山内 崇 加藤 雅彦 島田 友裕 鈴木 博実 瀬戸 義哉 中林 和重
専任講師	金子 賢太朗 山田 千早

院生生活REPORT

多くのことが得られる研究生活

農芸化学専攻　博士前期課程2年
中野 美咲
三重県立伊勢高等学校卒業

私が所属する研究室ではヨーグルト製造に用いられる乳酸菌の共生関係や乳酸菌が作る多糖の機能性について研究を行っており、ゆくゆくは研究成果がヨーグルトの生産現場に還元されることを目標にしています。研究では多くの壁にぶつかりますが、原因を追究し実行するというサイクルを日々行う中で、思考力を鍛えられています。このように研究生活では結果を求めることに加え、実社会で役立つ力も身につけられると思います。

▶農学専攻

人間社会の維持・発展に貢献する

本専攻は、生産植物・環境植物・農地・農村・動物が研究対象です。その方法論は、生理学・生態学的方法から動物行動学・微生物学・生物化学・分子生物学・分子遺伝学・環境学・水理学・農村計画学・土壌物理学・疫学・バイオ統計学的手法等です。それは、生物や植物の群落・動物群レベルから、個体・器官・組織・細胞・分子レベルまで含みます。研究目的を解明しようとする課題のキーワードで示せば、作物収集・発育管理・育種素材・鮮度保持・病害虫耐性・土地自然特性活用・緑化・希少種保全手法・免疫機能・代謝調節機構・有用菌遺伝子・動物行動と繁殖・動物福祉等となります。これらの最終目的は、食料の持続的生産・健康と福祉・共生と循環等、人間社会の維持と発展に貢献することです。

［教育・研究スタッフ］

教授	池田 敬 糸山 享 岩﨑 直人 岩﨑 泰永 倉本 宣 登尾 浩助 半田 高 丸橋 亘 溝口 康 元木 悟
准教授	大里 修一 川口 真以子 菅野 博貴 小島 信彦 佐々木 羊介 塩津 文隆 新屋 良治 服部 俊宏
専任講師	伊藤 善一 矢﨑 友嗣

院生生活REPORT

農業の課題解決に貢献できる

農学専攻　博士後期課程3年
田口 巧
埼玉県立越ヶ谷高等学校卒業

農作物は気候変動により安定生産が難しくなる一方、高品質生産・流通が求められ、課題に直面しています。私は野菜の生理生態に着目した栽培技術を開発して課題解決を目指しています。大学院では先生方や様々な人と意見交換する機会が多く、研究の意義が明確になり、より熱意を持って研究活動に取り組めます。研究過程で苦労することもありますが、得られた成果が生産現場に還元され、評価される貴重な経験を得ることができます。

▶農業経済学専攻

食料・農業・環境を考え、応える

本専攻は、食料・農業・環境にかかわる諸問題を社会科学の立場から解明し、人類の持続可能性の社会・経済条件を考究するという高邁な目的をもっています。これは、困難な時代の本専攻への社会的要請でもあります。そのため、社会科学諸学問の修得を基本として、専門的かつ総合的な観点と、フィールドに根ざしながらグローバルに考える複眼的な視点をもつことができる教育指導を行っています。大学院生自ら研究テーマを選び、充実したスタッフ陣によって、さまざまなアドバイスを受けることができます。スタッフと院生との距離が近いことも本専攻の特長であり、専用の研究スペースと情報機器を使用することができます。このような環境下で、研究に取り組んだ修了者は、試験研究機関、農業団体、官公庁、一般企業などで活躍しています。

［教育・研究スタッフ］

教授	池上 彰英 市田 知子 大江 徹男 小田切 徳美 作山 巧 竹本 田持 橋口 卓也 廣政 幸生 藤栄 剛
准教授	岡 通太郎 片野 洋平 中嶋 晋作 本所 靖博
専任講師	暁 剛

院生生活REPORT

地球環境から、あなたの食卓まで

農業経済学専攻　博士前期課程1年
丸山 隆馬
東京都私立明治大学付属中野八王子高等学校卒業

私たちは、農業を介した世界の環境問題から、農産物が生産されあなたの手に届くまで、このごく当たり前であると同時に重要で、無くてはならない「農業経済学」を学んでいることに誇りを持っています。私は現在、さいたま市を対象にした都市における農業経営について研究を行っています。親身になって指導してくださる先生方をはじめ、少人数で行われる講義を通じて、和気あいあいとした雰囲気の仲間達と充実した日々を過ごしています。

▶生命科学専攻

生命の謎を解明し、人類の未来に貢献する

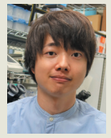
本専攻では生命科学とバイオテクノロジーの基本的な知識と研究手法を基盤とし、動物、植物、微生物を対象に基礎・応用にわたる研究と教育を行っています。タンパク質の構造と機能の研究、疾病発症機構の解明や食料生産に役立つ分子生物学的、情報科学的な基礎研究をはじめ、遺伝情報の発現や細胞の増殖・分化に関する研究、生体活動でのホルモンや体内時計の役割や、環境変化・病原体への応答メカニズムの解析、微生物の健康・環境への有効利用、クローン動物や遺伝子組換え動物の再生医学研究など、さまざまな分野の研究が各研究室で展開されています。本専攻の修了者は、食品、化学、医療、ゲノム解析、生物資源と環境の保全など、幅広い分野において活躍することが期待されています。

［教育・研究スタッフ］

教授	浅沼 成人 大鐘 潤 賀来 華江 川上 直人 紀藤 圭治 戸村 秀明 長嶋 比呂志 中村 孝博 浜本 牧子 矢野 健太郎 吉田 健一 吉本 光希 渡辺 寛人
准教授	乾 雅史 河野 菜摘子 高橋 直紀 田中 博和 長竹 貴広

院生生活REPORT

多方面からの手厚いサポート



生命科学専攻　博士後期課程2年
杉山 瑞輝
岩手県立盛岡第一高等学校卒業

各研究室には主軸となるテーマが存在しており、基本的にはそれらに特化した実験環境が整っていますが、研究室内で手法が確立されていない実験を行うことも多々あり、それらをゼロから構築していくのはかなりハードルが高いです。しかし、生命科学科では様々な分野の研究が各研究室で行われていることもあり、所属研究室以外の先生方からもアドバイスや実験指導をいただける機会が多く、本専攻の魅力の一つだと感じています。

大学院生への支援制度

本学部では、大学院生を採用する助手制度、RA（リサーチアシスタント）制度、TA（ティーチングアシスタント）制度があり、学内にいながら一定の報酬を得ることができます。また、奨学金や研究支援のための学会研究発表助成なども行っています。

①助手制度：若手研究者の養成を目的とし、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、専門分野の研究や実験・実習および演習等の教育補助業務のほか、学部の教育的行事業務を行います。

②RA制度：博士後期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部内の研究プロジェクトや特定課題研究等において研究補助業務に従事します。

③TA制度：主に博士前期課程に在籍する大学院生を対象とし、学部学生に対する学習支援や、実験・実習等の授業科目における補助業務に従事します。教育者、研究者になるためのトレーニングの機会となっています。

④奨学金制度：修了と同時に返還義務が生じる貸費型と、修了後に返還の必要がない給費型の２つがあります。給費奨学金には、明治大学大学院研究奨励奨学金があり、学業成績・研究業績が特に優秀な方を対象に授業料2分の1相当額が給費されます。

⑤学会研究発表助成：研究成果の発表の場である各種学会発表に対し、その交通費および参加費（ともに上限あり）を年間２回まで助成し、学外への研究の成果発表を支援しています。

TAは、実験・実習授業等に参加して、担当教員をフォローする役目も果たしています。

［ 2024年度 大学院博士課程 入学試験日程 ］

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士前期課程	**学内選考入学試験**	本学部4年生	5月	5月30日～6月2日	7月1日	面接試問
	Ⅰ期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	7月	9月1日～5日	10月7日	英語・専門科目・専修科目・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション（面接試問含む）
	Ⅱ期入学試験	学部4年生・卒業生・留学生	11月	12月1日～5日	2月1日	英語・専門科目・専修科目・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション（面接試問含む）
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	7月 11月	9月1日～5日 12月1日～5日	10月7日 2月1日	書類審査・小論文・面接試問

	入試形態	対象	要項公開	出願期間	入学試験日	選考方法
博士後期課程	**学内選考入学試験**	本研究科博士 前期課程2年生	5月	5月30日～6月2日	7月1日	面接試問
	Ⅰ期入学試験	博士前期2年生・ 修了生・留学生	7月	9月1日～5日	10月7日	英語・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション（面接試問含む）
	Ⅱ期入学試験	博士前期2年生・ 修了生・留学生	11月	12月1日～5日	2月1日	英語・面接試問 ※農芸化学専攻のみ英語・プレゼンテーション（面接試問含む）
	社会人入学試験	社会人・社会人経験者	7月 11月	9月1日～5日 12月1日～5日	10月7日 2月1日	書類審査・小論文・面接試問

［ 2022年度 農学研究科修了生の主な就職先 ］

・国家公務員（一般職）	・カゴメ（株）	・全国農業（協組連）本所	・日本製紙（株）	・（学）法政大学
・パーソルテンプスタッフ（株）	・片倉コープアグリ（株）	・WDB（株）エウレカ社	・日本アイ・ビー・エムデジタルサービス（株）	・（地独）北海道立総合研究機構
・キオクシア（株）	・カネコ種苗（株）	・（株）地圏環境テクノロジー	・（一社）日本ガス協会	・（株）Mizkan J plus Holdings
・東京都庁	・カルビー（株）	・千葉県庁	・（一財）日本食品分析センター	・三菱商事ライフサイエンス（株）
・（国研）農業・食品産業技術総合研究機構	・キヤノンITSメディカル（株）	・ちふれホールディングス（株）	・日本生活（協組連）	・（株）武蔵野種苗園
・富士通Japan（株）	・キリンホールディングス（株）	・筑波乳業（株）	・日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ（株）	・（株）村上農園
・アサヒ飲料（株）	・（株）グレープストーン	・TIS（株）	・日本農薬（株）	・（株）ヤッホーブルーイング
・EPSホールディングス（株）	・（株）コーセー	・（株）TBM	・NEUSOFT Japan（株）	・雪印メグミルク（株）
・（株）伊藤園	・国際航業（株）	・（株）テクノプロ	・（株）ハイサイド	・養命酒製造（株）
・エイムネクスト（株）	・（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構	・テス・エンジニアリング（株）	・（株）パスコ	・（株）四谷大塚
・エイワイファーマ（株）	・（株）コスモビューティー	・テルモ（株）	・P&Gジャパン（同）	・ライオン（株）
・（株）エクサ	・（株）サカタのタネ	・（株）天地人	・（株）日立システムズ	
・（株）エヌ・ティ・ティ・データCCS	・ジーエルサイエンス（株）	・（株）トキワ	・（株）日立ソリューションズ	
・大塚製薬（株）	・スターゼン（株）	・ニチバン（株）	・富士通エンジニアリングテクノロジーズ（株）	
・（株）オデッセイ	・積水樹脂（株）	・日星産業（株）	・古河電気工業（株）	

奨学金と学習支援

充実した明治大学の奨学金制度

学生生活を維持・充実させるためには、経済的負担が伴います。負担を軽減するために学生自身がアルバイトに力を入れると、時として学業に支障をきたすなどの影響が出てきます。そこで、明治大学では修学に必要な経費を補うために、多くの奨学金制度を設けています。奨学金は返済の必要のない給費型と、卒業後に返済の義務が生じる貸費型（無利子・有利子）のふたつに分けられます。奨学金にはさまざまな種類があります。明治大学独自の奨学金や日本学生支援機構奨学金、国の修学支援制度や民間団体・地方公共団体などが行う奨学金があり、応募資格や条件として、学業成績、人物、家計状況などの選考基準がそれぞれ定められています。多くの奨学金は4月上旬に募集を行うので、入学後に明治大学ホームページ掲載の奨学金情報誌『ASSIST』で詳細を確認してください。

［ 農学部で利用できる主な奨学金（2023年度予定） ］

奨学団体	タイプ※1	申込制※2	奨学金名称	支給額等
明治大学	○	●	明治大学入学前予約型奨学金「おゝ明治奨学金」	授業料2分の1相当額：経済支援を必要とする受験生が対象
	○	●	明治大学給費奨学金	300,000円、400,000円：経済支援を必要とする学生に給付
	○	●	明治大学創立者記念課外活動奨励金	30,000円～500,000円：さまざまな分野で活躍している人、チャレンジしている人に給付
	○	●	明治大学創立者記念経済支援奨学金	240,000円～360,000円：経済困窮の両親ともにいない自活者や身体に障がいをもつ学生に給付
	○		明治大学学業奨励給費奨学金	授業料2分の1相当額：1～4年生が対象で入学後の学業成績優秀者に給付
	○	●	明治大学校友会奨学金「前へ！」	200,000円：明治大学校友会からの寄付金を原資として、地域性および経済状況を重視したうえで選考し、給付
	○	●	明治大学スポーツ奨励奨学金	授業料相当額または授業料2分の1相当額：体育会運動部に所属し、 スポーツ活動成績優秀者に給付
	○	●	明治大学連合父母会一般給付奨学金	250,000円：経済的に修学が困難な学業成績優秀者に給付
	○	●	明治大学連合父母会特別給付奨学金	700,000円：家計支持者の死亡により給付
	○	●	明大サポート奨学金	授業料4分の1相当額：家計急変者・困窮者に給付
日本学生支援機構	△	●	第一種奨学金	20,000円、30,000円、40,000円、54,000円／月：自宅通学生、20,000円、30,000円、40,000円、50,000円、64,000円／月：自宅外通学生
	▲	●	第二種奨学金	20,000円～120,000円／月：額は左記範囲内10,000円刻みで選択
国の修学支援制度	○	●	授業料等減免	入学金200,000円、授業料700,000円：住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯が対象 給付額は、上限の額です。収入額により、上記額の3分の2または3分の1になります
	○	●	給付型奨学金	自宅生 月額38,300円（年額459,600円）、自宅外生 月額75,800円（年額909,600円）：住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯が対象 給付額は、上限の額です。収入額により、上記額の3分の2または3分の1になります
その他	○△	●	民間団体奨学金	15,000円～80,000円／月：額は奨学団体による
	△	●	地方公共団体奨学金	25,000円～52,000円／月：額は奨学団体による

※1 ○：給付型、△：無利子貸与型、▲：有利子貸与型　※2 ●：申請が必要な奨学金

大学院生が学生をサポートする「農学部学習支援室」

農学部では、農学部教職員から構成された学習支援委員会による「学習支援室」を開設し、学生の学習支援に恒常的に取り組んでいます。「学習支援室」は3つのエリア（学習相談エリア・自習エリア・パソコンエリア）から構成されています。

学習相談エリアには大学院生のTA（ティーチングアシスタント）が常駐しており、授業の不明点やレポートの書き方、研究室の選び方など、学生の質問や要望に応じて相談・アドバイスを行います。自習エリアやパソコンエリアには、辞書や参考文献もあり、個人やグループで自由に利用することが可能です。

［ 農学部学習支援制度 ］

1. 入学前教育プログラム	英語通信添削や学科別入学前課題の提出（特別入試入学者対象）
2. フォローアップ講座（英語）	短期集中の高校レベル英語復習講座（特別入試入学者対象）
3. フォローアップ講座（理科）	短期集中の高校レベルの理科（生物・化学）復習講座 （特別入試入学者および一般入試入学者対象）
4. 履修相談会	専任教職員による授業科目の履修に関する個別相談会
5. オフィスアワー	専任教員の各研究室で実施

明治大学の就職支援・資格取得

受験生のみなさんは、今は大学進学だけを考えて勉強に励んでいるはずですが、「10年後、20年後、将来的にどんな人生を送りたいか」を考えるのも大切なことです。明治大学では、キャリア相談や、就職ガイダンスなど、就職支援にも力を入れています。

4年間のキャリアデザイン

キャリア形成
- 学業
- 課外活動
- キャリア相談
- インターンシップ

就職活動
- 求職登録
- 自己分析・自己理解
- 業界研究、企業(団体)研究
- 筆記試験対策
- 就職サイトに登録
- 企業(団体)にエントリー

エントリーシート記入および提出
会社説明会参加
筆記試験/面接
選考・内々定

1・2年次	3年次・大学院1年		4年次・大学院2年
キャリアデザイン ガイダンス Meiji Job Trial Meiji Challenge Program	【ガイダンス】 進路・就職ガイダンス(年2回) 公務員ガイダンス インターンシップ準備講座 【選考対策系】 エントリーシート対策講座 筆記試験対策講座 面接対策講座/模擬面接会 グループディスカッション練習会	【自己理解系】 コンピテンシー診断(自己分析)講座 【業界・企業理解系】 業界・仕事理解セミナー 公務員業界研究セミナー 工場・事業所見学会 内定者学生との懇談会 学内OB・OG懇談会	RESTARTプログラム

資格という「強み」をいかそう

明治大学には、各種資格を取得するための資格課程が設置されていて、農学部生も各課程に登録し、必要な単位を修得することで資格を取得できます。また、そのほかに農学部を卒業することで得られる資格・受験資格等もあります。

[課程別 明治大学に設置されている資格課程の種類]

課程名称	学科	取得できる免許状・資格
教職課程	農学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	農芸化学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」「農業」
	生命科学科	中学校教諭一種免許状「理科」、高等学校教諭一種免許状「理科」
	食料環境政策学科	中学校教諭一種免許状「社会」、高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」「農業」
学芸員養成課程	各学科	学芸員
社会教育主事課程	各学科	社会教育主事※1
司書課程	各学科	司書
司書教諭課程	各学科	司書教諭※2

※1 社会教育主事の資格を得るには、修了後1年以上社会教育主事補の職に就く必要があります。 ※2 司書教諭の資格は、教員免許状を有する者にのみ、その効力が生じます。

[資格別 農学部で取得できる資格・受験資格等]

資格名称	学科	資格取得方法
測量士補	農学科	卒業後、申請することで資格が取得できます※
甲種危険物取扱者	農芸化学科	受験資格
化学分析技能士		受験資格
栄養情報担当者		受験資格
ペット栄養管理士		受験資格
食品衛生責任者		任用資格
飼料製造管理者		任用資格
毒物劇物取扱責任者		任用資格
食品衛生監視員		任用資格※
食品衛生管理者		任用資格※
環境衛生監視員		任用資格※
遺伝子組換え生物等の立ち入り検査員		任用資格
特別用途食品の検査機関における試験員		任用資格

※所定の科目の修得が必要です。

入試情報

■自己推薦特別入学試験

明治大学農学部では、各学科の教育理念に強い関心と理解をもち、将来の可能性を期待できる個性や資質をもつ者を募集するため、自己推薦特別入学試験を実施します。このような条件を満たし、筆記試験では評価できない能力を有する者の積極的な応募を期待します。

学科	募集人数
農学科・農芸化学科・生命科学科・食料環境政策学科	各学科10名

〈 出願資格 〉

a. 明治大学農学部志望学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。
b. 以下の 1 2 のいずれかの条件を満たす者。

1 公募生A（学科により異なります）

次に掲げる(ア)～(エ)のいずれかを満たし、かつ、各学科の要件①または②の条件を満たす者。(注1)

(ア) 2023年4月1日から2024年3月31日までに高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を卒業または卒業見込みの者。
※明治大学付属高等学校(明治・中野・中野八王子)からも出願可能。

(イ) 2023年4月1日から2024年3月31日までに高等専門学校の第3学年を修了または修了見込みの者。

(ウ) 2023年4月1日から2024年3月31日までに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程もしくは相当する課程を有するものとして認定もしくは指定した在外教育施設の当該課程を修了または修了見込みの者。

(エ) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを、2023年4月1日から2024年3月31日の間かつ文部科学大臣が定める日以後に、修了または修了見込みの者。

農学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の学習成績の状況が3.5以上の者。(注2)

農芸化学科
① 全体の学習成績の状況が4.3以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の学習成績の状況が4.0以上の者。(注2)

生命科学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の学習成績の状況が3.5以上の者。(注2)
※学業以外の優れた活動歴では特に研究発表・懸賞論文分野の実績のある者を重視します。

食料環境政策学科
① 全体の学習成績の状況が4.0以上の者。(注2)
② 在学中に学業以外に優れた活動歴がある者(注3)で、全体の学習成績の状況が3.5以上の者。(注2)

(注1) 公募生A各学科要件①②について
①の要件を満たす者で、在学中に学業以外に優れた活動歴がある者は、②として出願することもできます。入学志願票で選択してください。

(注2) 学習成績の状況について
出願時点において提出可能な最新の調査書における全体の学習成績の状況です。
※学校の制度やカリキュラムにより最終学年(3年生)の1学期または前期までの成績が記載されない場合は、2年生終了時までの成績が記載された調査書における全体の学習成績の状況とします。

(注3) 学業以外の優れた活動歴について
高等学校(中等教育学校の場合は後期課程)在学中に、特筆すべき優れた能力を恒常的に発揮した者(ただし、スポーツ競技は除く)で、それを具体的・客観的に証明する資料(書類・作品・記事・書籍等、自作のレポートのみの提出は不可)を提出可能な者。

2 公募生B（国際型/全学科共通）

次のⓐ～ⓒの条件を全て満たしている者。
ⓐ 日本国籍を有する者。
ⓑ 次の(ア)から(ウ)のいずれか一つの条件を満たしている者。
※日本での修学歴がある場合、最終学年を含め継続して2学年以上は外国の高等学校に在籍し、かつ修了した者または修了見込みの者。
※在外教育施設で修学した場合は、「公募生A」の出願資格を参照してください。

(ア) 外国において、学校教育における12年の課程を2023年4月1日から2024年3月31日までに修了した者または修了見込みの者。
＊「外国において、学校教育における12年の課程を修了した者」とは、「外国の正規の学校教育における12年目の課程を修了した者」という意味となります。修了した課程が正規の学校教育であるか、何年目の課程であるかはそれぞれの国の大使館等にお問い合わせください。

(イ) 国際的な評価団体(WASC、ACSI、NEASC、CIS)の認定を受けた国内外のインターナショナルスクール等の12年の課程を2023年4月1日から2024年3月31日までに修了した者または修了見込みの者。

(ウ) 文部科学大臣が高等学校相当として指定した日本国内の外国人学校を2023年4月1日から2024年3月31日までに修了した者または修了見込みの者。

ⓒ 指定の大学入学資格試験、または統一試験の要件を満たしている者。
※指定の試験内容については入学試験要項にてご確認ください。

出願期間	
第一次選考	2023年9月1日(金)～9月7日(木)
第二次選考	2023年9月28日(木)～10月4日(水)

	入学試験日	試験科目	合格発表日
第一次選考	–	●書類選考	2023年9月28日(木)
第二次選考	2023年10月14日(土)	●特別講義受講 ●特別講義に関する筆記試験 ●個別面接	2023年11月6日(月)

学科	2023年度				2022年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
農学科	23	14	14	11	23	14	14	8
農芸化学科	31	14	14	10	15	13	13	11
生命科学科	21	16	15	9	22	15	14	11
食料環境政策学科	13	9	9	8	31	15	14	8

■地域農業振興特別入学試験

地域農業振興に対する強い意志、斬新な発想、そして具体的プランと行動力を持ち、地域農業振興という課題に対して、本学科で学んだ知識・経験をいかし、将来は自ら地域農業振興のリーダーとして仲間を巻き込みながら取り組む能力と志を有する者を募集します。

学科	募集人員
食料環境政策学科	9名

〈 出願資格 〉

次の①～③の全てに該当する者
①地域農業振興に深い関心を持ち、将来、地域の農業振興を担うリーダーとして活躍する事を志す者。
※詳しくは、入学試験要項記載の実施目的や求める資質などを参考にしてください。
※また、食料環境政策学科では「自己推薦特別入学試験」・「指定校推薦入学試験」も実施しています。それぞれの入学試験は趣旨や出願資格が異なりますので、特別入学試験を利用して受験を希望する者は両方の要項を熟読し、違いや内容をよく確認したうえで出願してください。
②明治大学農学部食料環境政策学科を専願とし、合格の場合、入学が確約できる者。
③次に掲げる(ア)から(オ)のいずれかを満たす者。
(ア)高等学校(特別支援学校の高等部を含む。)もしくは中等教育学校を卒業した者または2024年3月31日までに卒業見込みの者。
(イ)高等専門学校の第3学年を修了した者または2024年3月31日までに修了見込みの者。
(ウ)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程もしくは相当する課程を有するものとして認定もしくは指定した在外教育施設の当該課程を修了した者または2024年3月31日までに修了見込みの者。
(エ)専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを、文部科学大臣が定める日以後に、修了した者または2024年3月31日までに修了見込みの者。
(オ)高等学校卒業程度認定試験(旧大検)を合格した者または2024年3月31日までに合格見込みの者で、2024年3月31日までに18歳に達する者。

出願期間	
第一次選考	2023年9月1日(金)～ 9月7日(木)
第二次選考	2023年9月28日(木)～10月4日(水)

	入学試験日	試験科目	合格発表日
第一次選考	–	●書類選考	2023年9月28日(木)
第二次選考	2023年10月21日(土) ※受験者数によって、10月22日(日)に実施することもあります。両日予定を空けておいてください。	●総合面接(プレゼンテーション＋面接)	2023年11月6日(月)

学科	2023年度				2022年度			
	第一次選考		第二次選考		第一次選考		第二次選考	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
食料環境政策学科	29	9	8	6	21	7	7	4

■その他特別入学試験

農学部では下記の特別入学試験も実施しています。詳細については各入学試験要項をご確認ください。
●スポーツ特別入学試験　●外国人留学生入学試験

※各入学試験について、内容が変更となる場合がありますので、詳細は必ず入学試験要項(ホームページ)で確認してください。
※入学試験要項および出願書類は大学ホームページよりダウンロードできます。公開時期は入学試験により異なります。

■ 学部別入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	試験時間
農学科	90名	国語、数学、理科 （4科目中2科目選択）	国語（国語総合「漢文を除く」）	1科目 150点 計300点	120分
農芸化学科	84名		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		
			化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）		
生命科学科	92名	外国語（1科目選択）	英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）、ドイツ語、フランス語	150点	60分
			合計（3科目）	450点	
食料環境政策学科	79名	国語／地理歴史、公民、数学、理科 （国語を必須、他の7科目中1科目選択）	国語（国語総合「漢文を除く」）	1科目 150点 計300点	120分
			世界史B、日本史B、地理B、政治・経済		
			数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		
			化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）		
		外国語（1科目選択）	英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）、ドイツ語、フランス語	150点	60分
			合計（3科目）	450点	

出願期間（消印有効）	入学試験日	合格発表日
2024年1月4日（木）～1月26日（金）	2024年2月15日（木）	2024年2月22日（木）

学科	2023年度			2022年度			2021年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	912	275	3.3	942	297	3.2	785	269	2.9
農芸化学科	773	232	3.3	698	250	2.8	571	210	2.7
生命科学科	1123	304	3.7	916	306	3.0	939	279	3.4
食料環境政策学科	1008	217	4.6	996	211	4.7	844	166	5.1

■ 全学部統一入学試験

学科	募集人員	教科		試験科目	配点	時限	試験時間
農学科	3科目：15名 英語4技能3科目：5名	3科目方式	外国語	英語（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）、ドイツ語、フランス語から1科目選択	100点	1時限	60分
			理科	物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択	100点	3時限	60分
			●下記の2教科2科目のうちから1科目を選択し、受験する。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。				
			国語	国語総合（漢文を除く）	100点	2時限	60分
農芸化学科	3科目：15名 英語4技能3科目：5名		数学	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		4時限	60分
			合計（3科目）		300点		
		英語4技能3科目方式	◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	100点	–	–
			理科	物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択	100点	3時限	60分
			●下記の2教科2科目のうちから1科目を選択し、受験する。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。				
生命科学科	3科目：10名 英語4技能3科目：5名		国語	国語総合（漢文を除く）	100点	2時限	60分
			数学	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		4時限	60分
			合計（3科目）		300点		
食料環境政策学科	3科目：5名 英語4技能3科目：3名	3科目方式	外国語	英語（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ）、ドイツ語、フランス語から1科目選択	100点	1時限	60分
			●下記の5教科9科目のうちから2科目を選択し、受験する。3科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。				
			国語	国語総合（漢文を除く）	200点（100点×2）	2時限	60分
			地理歴史、公民、理科	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択		3時限	60分
			数学	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		4時限	60分
			合計（3科目）		300点		
		英語4技能3科目方式	◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。	100点	–	–
			●下記の5教科9科目のうちから2科目を選択し、受験する。3科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。				
			国語	国語総合（漢文を除く）	200点（100点×2）	2時限	60分
			地理歴史、公民、理科	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択		3時限	60分
			数学	数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」）		4時限	60分
			合計（3科目）		300点		

出願期間（消印有効）	入学試験日	合格発表日	試験会場
2024年1月4日（木）～1月17日（水）	2024年2月5日（月）	2024年2月13日（火）	東京（本学キャンパス）、神奈川（本学キャンパス）、札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡

学科	2023年度			2022年度			2021年度		
	受験者数※1	合格者数※1	競争率※1	受験者数※1	合格者数※1	競争率※1	受験者数※1	合格者数※1	競争率※1
農学科	346 / 259	86 / 22	4.0 / 7.2	385 / 114	90 / 25	4.3 / 4.6	309 / 123	78 / 21	4.0 / 5.9
農芸化学科	274 / 161	63 / 28	4.3 / 5.8	314 / 156	62 / 31	5.1 / 5.0	213 / 90	60 / 26	3.6 / 3.5
生命科学科	358 / 153	69 / 21	5.2 / 7.3	311 / 135	58 / 21	5.4 / 6.4	297 / 110	60 / 15	5.0 / 7.3
食料環境政策学科	210 / 163	32 / 24	6.1 / 6.8	239 / 190	34 / 22	7.0 / 8.6	175 / 113	25 / 17	7.0 / 6.6

※1　左の数字は3科目方式、右の数字は英語4技能3科目方式。

■ 大学入学共通テスト利用入学試験

学科	募集人員	教科	試験科目	配点	備考
農学科	12名	外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	200点	『英語』は、「リーディングの配点100点を200点に換算した点数」または、「リーディングの配点100点を150点に換算、リスニングの配点100点を50点に換算し、リーディングとリスニングの換算合計点数」のいずれか高得点の成績を合否判定に利用する。
農芸化学科	12名	国語	『国語』	200点	
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1科目	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績とする。
		●下記の2教科8科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。			
生命科学科	15名	数学	「数学Ⅰ」、『数学Ⅰ・数学A』、「数学Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第2解答科目の成績とする。
合計（4科目）				800点	
食料環境政策学科	16名	外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』から1科目	200点	『英語』はリーディング100点、リスニング100点とする。
		国語	『国語』	200点	
		●下記の4教科15科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。			
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
		公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、『倫理、政治・経済』		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。「地理歴史」「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
		数学	「数学Ⅰ」、『数学Ⅰ・数学A』、「数学Ⅱ」、『数学Ⅱ・数学B』		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」		大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。
合計（3科目）				600点	

出願期間（消印有効）	入学試験日（大学入学共通テスト）	合格発表日
2024年1月4日（木）～1月12日（金）	2024年1月13日（土）・1月14日（日）	2024年2月13日（火）

学科	2023年度			2022年度			2021年度		
	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率	受験者数	合格者数	競争率
農学科	516	207	2.5	503	189	2.7	652	239	2.7
農芸化学科	396	156	2.5	394	126	3.1	353	144	2.5
生命科学科	674	268	2.5	545	199	2.7	632	278	2.3
食料環境政策学科	388	128	3.0	567	129	4.4	412	139	3.0

※学部別入学試験・全学部統一入学試験・大学入学共通テスト利用入学試験について、
詳細は一般選抜要項（明治大学ホームページにて11月上旬公開予定）をご確認ください。

Q&A

Q 学部別入学試験において1時限に2科目を受験することになっていますが？

Answer 複数科目が合格された試験冊子と2科目分のマークシートを配付しますので、その場で受験科目を2科目選択してもらいます。1時限は120分ありますので、選択した2科目の時間配分については各自で調節してください。（食料環境政策学科は国語が必須）

Q 化学や生物受験ではないので、大学に入ってから授業についていけるか不安です。

Answer 農学部理系3学科の授業では化学や生物の基礎知識が必要になりますが、入学後に化学や生物が未履修の人にもサポート体制を用意していますので、努力次第で授業についていくことは十分可能です。

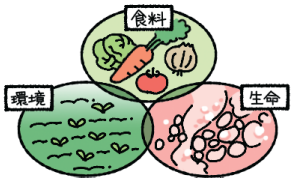
Step into Meiji University

School of Agriculture, Meiji University

明治大学農学部がわかる9つのポイント

学科・科目

自然科学＋社会科学＋教養



4学科それぞれのアプローチ

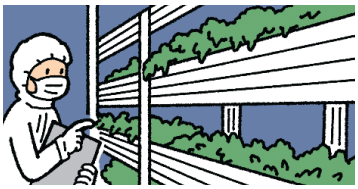
農場実習

土に触れて感じる

全学科で農場実習

先端研究施設

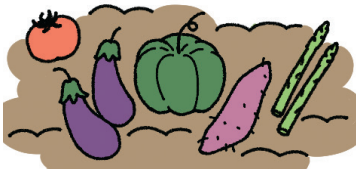
研究の幅が大きく広がる



全国有数の教育研究施設

農学科

「いのち」を育む現場で学ぶ



食料生産·環境の課題解決

農芸化学科

バイオテクノロジーを駆使

生活に密着した課題を解決

生命科学科

地球上の生命現象を追究

分子·遺伝子レベルで解明

食料環境政策学科

農学＋現場体験

社会科学で解き明かす

国際・留学

学部独自の国際交流

世界課題を体感する

進路

幅広い業種・機関で活躍

大学院生への支援充実

詳しくはこちらを**CHECK!**

受験生のための学部選択ガイド Step into Meiji University

https://www.meiji.ac.jp/stepinto/agri

LINE **@meijiexam**

一人ひとりにぴったりの入試やイベントの情報をお知らせ。LINEだけのイベントもやってるよ!!

登録してくれた?

● 明治大学入試総合サイト

https://www.meiji.ac.jp/exam/

農学部事務室

noujimu@mics.meiji.ac.jp

＜生田キャンパス:全学年＞044-934-7573